

# ひまわり

F T Z - F M 愛好会

ひまわり特集号

1993. 10. 12

事務局 JQ3NVK JQ3TWQ

編集 JQ3WHG JS3HPC

## 「ひまわり」誕生秘話

特集号特別寄稿

田中勇 de JQ3WHG

「機関紙を発行しようと思うがどやろか? ……」と小中総理(JQ3NVK 局)は、満園副総理(JQ3TWQ 局)ほか列席の議員(ほか各局)を睨きもせず見まわした。眼鏡が、まるでレンズが無いかのように、いっそう透き通って見えた。連立内閣(F T Z - F M 愛好会)発足後問もない、曇り日の続いていた頃のことである。ここは、選挙区制や党派や派閥、金権問題などの全く関係無い閣である。ひたすら、「国民(430MHz・FM愛好者)同士楽しく付き合うことができれば……」と、思うばかりであった。小中の右腕とも目されている満園が、その少し鼻にかかった声で、「それは私も大賛成ですが」と、口を開いた。印刷代や郵送代などの費用をどうするか、記事はどんなものにするか、編集は誰が、などの問題がある。

論議を重ね、編集は誰がやるかとなったとき、無口で何事にも慎重な田中(JQ3WHG 局)が、重々しい口調で軽々しく言った。「その編集、私がやりましょか?」。帰途、田中は、半ば後悔していた。空を見送りながら「明日も晴れたな」と呟いて見た時計は、もう明日になっていた。

悪ふざけはこれ位にして……、実際、壁新聞すら作ったことも無いくせに困ったものである。結局、できあがったのが、仮称、F T Z 通信(A 4 × 1 枚)であった。その F T Z 通信での募集に応募された村山氏(JQ3VID 局)の「ひまわり」が採用され、そして、「ひまわり創刊号」より、西原氏

(JS3HPC 局)を編集長として迎え入れ、今日に至っているのである。

編集といっても大したことではなく、皆さんが応募された記事をワープロで紙面に打ち替える程度であり、編集長は別として、大変なのは、印刷時の編集および手配をしている満園氏と原稿管理および配送手配をしている小中氏ならびにそれを手伝っておられる小中氏の奥さんではないかと思えます。

-----  
<お願い>

「ひまわり」は、皆さんからの記事を主体にしております。言い換えれば皆さんからの記事の応募がなければ「ひまわり」は発行できないということになります。

「アマチュア無線を始めたきっかけ」、「移動運用記」などアマチュア無線に関するものであれば何でも結構です。是非たくさん応募されて下さい(ただし、中傷的なものは不採用となる場合があります)。特に、技術的な記事、アイボール後の感想文に添えた記事は大歓迎です。

それと、F T Z - F M 愛好会は、皆さんが主役です。「私も編集に加わってみたい」、「企画に加わってみたい」、e t c. ありましたら、事務局までご連絡下さい。

原稿送付先：〒660

尼崎市大島3-12-2

F T Z - F M 愛好会 事務局

430MHz帯 FM メインローカル局が、ハムライフを通じて何かをやろうと羅針盤もないFTZ-FM愛好会という小船で、1990年4月に出航して以来、コールコールの回数も8月11日で第18回を迎えました。

FTZ-FM愛好会も当初、10数局程度のチェックイン局数でしたが、今や40局近くに増えて、7月22日の第1回アイボール会には、48局もの局並びに多数の御家族の方々が参加され、盛大で且つ楽しいアイボール会を催すことができる大船となりました。

また、1990年7月には、学生主体のFTZ-Jrも誕生し、7月28日に第1回コールコールが行われました。各局さん既に御存じのことですが、FTZ-FM愛好会は、無線業務その他により、お互いの親睦の輪を広げようとする同士の、主に430MHz帯 FM メインローカル局の集まりです。クラブ制度、会員制度をとらず、従って、会則など印刷されたものは有りません。各局さん自身で、各局さんの心の中で決めていただいで、FBな無線業務をエンジョイしていただいたら幸いです。

今回創刊されましたFTZ通信(仮称)は、そのようなFTZ-FM愛好会を発展させるための一手段に過ぎませんが、各局さんからいただいた原稿を主体に、不定期ではありますが、今後も発行を重ねていきたいと思っておりますので、各局さん宜しくお願ひ致します。

FTZ通信(1990.8.12)より

大庄消防無線クラブ結成後、私は430MHzメイン周辺にて、オンエア局とQSOすると共に、「大庄消防無線クラブ

オンエアミーティング」を毎週火曜日の22:00よりメイン付近で行っていました。その中で、JQ3KJB 山田さん(吹田市)よりアイボールの提案があり、JJ3YUAのQTHである尾崎市東大島農業会館でアイボール会を開催しました。21局もの多くの局長さんが集まれ、非常にFBなアイボールQSOでした。その後も、「大庄無線クラブオンエアミーティング」に数多くの局長さんがチェックインされる様になりました。

回を重ねるうちに、大庄無線クラブ局名でのオンエアミーティングでは、なにか制限がある様に思われることもあり、また誰でも気軽に声かけられ、チェックインできる「愛好会」をつくっては、との提案がありましたので、さっそく愛称を募集しました。数多くの応募があり、JQ3RBD 真鍋さん(豊中市)応募のFTZ-FM愛好会を採用、430MHz FM メインローカル愛好会がこうして誕生しました。

FTZは430の意味です。4(Four)3(Three)0(Zero)の頭文字をとったFBな愛称です。

思えば早いもので、オンエアミーティングも第29回を数え、総チェックイン局数は160局以上にもなっています。今後ともFTZ-FM愛好会は何の規約・規制もないFBな愛好会として育てていきたいと思っていますので、呼びかけをするときは、FTZ-FM愛好会各局とコールしていただければ、FBかと思っています。私はFTZ-FM愛好会メンバー各局とは、できる限りコールしないようにするつもりですので、皆さんもこの趣旨をご理解いただいで、FBな運用をお願い致します。

ひまわり創刊号(1990.10.31)より

# ひまわり

F T Z - F M 愛好会  
第 1 9 号

事務局 JQ3NVK JQ3TWQ JE3CUV

編集 JQ3WIG JS3HPC JS3QQS

## 突然おそった阪神淡路大震災とアマチュア無線

1995年1月17日05時46分、兵庫県南部をおそった大地震は尊い人命と多くの財産を奪いました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますと共に、復興に際してはお互い助け合いましょう。

### 地震発生時の私

1月17日05時46分は出勤途中で、JR神戸線芦屋駅手前を走行中に地震が発生、電車は脱線し、停車しました。私と阪神大震災については次回にします。

### 地震後のF T Z - F M 愛好会

地震発生後、F T Z - F M 愛好会は1月29日に予定していた新年アイボール会を阪神大震災義援アイボール会に変更して実施することに決定、430FM運用で交信できる各局向き安否情報の収集と共にアイボール会実施を連絡。

1月29日当日は交通事情の悪い中、60局の参加のもとでアイボール会を行うことができ、各局と体験談を話し合い、お互いに助け合いましょうと、参加費は義援金としてお送りすることができました。

その後、自転車・単車隊にて神戸・芦屋・西宮方面の各局の状況把握を実施、多くの局長さんの無事を確認することができました。自転車・単車等で現地調査された各局ありがとうございました。

### J A R L の非常通信無線局の開局とF T Z - F M 愛好会

災害復旧を支援するため、JA3RL-JA3YRL

/3の非常通信無線局の開局を知り、神戸市東灘区のJA3YRL/3を訪ね、8J3AML(東灘区役所内)にボランティアとして参加しました。

参加目的はアマチュア無線の交信を利用して何をしているのか、また何ができるのかを知りたい、また今私たちが何をすべきかを求めてでした。

感想はあまり運用がうまくできていなかった……。1日の参加では私達が何をすべきかを知ることができず、東灘区までは交通事情もあり、毎日の参加は難しい。どこか近くで活動できる場所は……とっていました。

JQ3TWQ局より西宮現地事務所に無線機はあるが、運用者がいないとの情報をもとに、彼に西宮現地事務所を訪ねてもらいました。西宮現地事務所のチーフの方が元アマチュア無線家であったため、話がスムーズに進み、運用してほしいとの返答がありました。F T Z - F M 愛好会臨時会議を開催、2月12日開局予定で、非常通信局を運用することに決定しました。

### 災害救援特別局 8J3AMB

運用目的 アマチュア無線局運用を主目的とせず、一般ボランティア参加、震災災害復旧支援活動の中でアマチュア無線を運用するものとする

運用期間 1995年2月12日～4月15日

運用場所 西宮市津門川田町2番28号

市立福祉会館4F

震災救援社協合同本部 西宮現地事務所

設定周波数 主に430、720MHz F3

運用主体 FTZ-FM愛好会及び一般支援アマチュア局、同時にJJ3YUA大庄消防無線クラブも開設

3月15日をもって西宮現地事務所は救援より復興に切り替えられ、西宮市社会福祉協議会に業務を引き継ぐことになり、8J3AMRも西宮市アマチュア局に引き継ぎ、4月15日迄確実な運用を続け、閉局となりました。アマチュア無線を通じ、西宮現地事務所にボランティア参加、協力いただいた局、本当にありがとうございました。

### 非常災害時とアマチュア無線

阪神大震災でアマチュア無線運用で思ったこと

1. 日頃よりローカル局との交信をしていること。8J3AMRは各局より支援のもとで運用ができました。
2. ローカルの運用周波数(430FM)の運用状況をよく知っていることが大切である。混信の中でもお互いに配慮しながらの交信術を習得していること
3. 周波数帯は430MHz FMモードが最適と思える。交信範囲が適当である。ハンディ機が普及している。

### 運用方法

今回の災害時、アマチュア無線家はアマチュア無線を聞いて救援活動の重要性を知り、アマチュア無線を運用して人命救助・災害の救援・復興の支援とは何かを考えさせられました。そういう局が大半であったと思います。「何をどの様にすれば……わからない……どこに行けば……」というの

が実態であったと思います。1人が、1局が、1グループが声を掛けることにより、多くの方が集まり、意見を交換し、行動を開始することができます。これがアマチュア無線、人の集まりであると思います。

5月6日の第265回FTZ-FM愛好会オンエアミーティングは、多くの局長さんのチェックインがありました。オンエアミーティングは1局がキー局になり、多くの局がワッチ、必要なときに電波を發放する。(チェックインをする) 非常時にはこの運用方法で非常通信ができるものと思っています。今回の8J3AMR(災害救援特別局)運用にあたって、この通信方法で多くの局より支援をいただきました。今後あってはならないことですが、非常時にはFTZ-FM愛好会、またはJJ3YUA(大庄消防無線クラブ)が非常通信局のキー局として運用することができます。その節は各局の支援をお願いします。

突然おそった阪神淡路大震災も、社会を恐怖に陥れている事件で過去の出来事のように忘れ去られようとしています。今、復興に向かい、歩みだしたところで、これからが大変な時期です。また、アマチュア無線についても、430MHzモードが主バンドで、救援波として活用されたことは事実です。

あらゆることを過去の出来事ですませず、将来への教訓とすべきであると思います。日常のアマチュア無線運用と違い、無線の新しい運用の場として、今後実験的に運用したいものです。

今回の非常通信の経験から今後のローカル周波数(430FM)運用の課題を見つけたい。「アマチュア無線の運用」に関して連載予定ですので、運用方法、意見などをお待ちしています。

小中幸雄

de JQ3NVK

## 備えよ 常に!

過日ミーティングで、JQ3NVK局を中心に趣味としてのアマチュア無線のあり方と非常時の対応について話をしている時に、JE3CDV局が「芸は身を助ける」ということわざを引用して、自局の考えと意見を述べられるのを聞いていて、私はもっばらうなづくばかりでした。

5月号ぐらいになってから、CQ誌やJARL NEWSにもやっと大震災の時のアマチュア無線の実情やボランティア局の活動の本当のところの記事になる様になりました。そして、HAMを含む官民一体の非常通信網を確立しようとする意見も見受けられました。

1月17日以来、私たちは何をしようとして何が出来たのか。これから先にはどうしようとするのか。深く考えればきりが無い程、私たちの受けたショックは大きい様です。

しかしよくよく考えてみれば、5年前に私が開局した時やそれぞれの皆さんの開局を振り返ると、私たちの無線の目的はあくまで個人的な楽しみの充実であって、「非常通信網を確立して、災害時に公的機関のバックアップをする」というものではありませんでした。少なくとも私のアマチュア無線の主目的は未知の人々との交信であり、まだ行ったことのない場所から電波に乗ってやってくる見知らぬ仲間や文化や風物を、誰の助けも借りずに、本人達同士が互いの技量をつくして語り伝え合うという事につきます。

日々に行う交信は楽しく、色々と今

まで自分が知らなかった事を教わり、また、新しい興味深い情報を生で提供していただく事もよくあります。まあ稀には、自慢話をとくとくと聞かされてうんざりする事もありますが。(なにせ交互通信なので、相手が話している間は聞き役に回らざるを得ません)

それにしても、天気の良い日にかねて計画していた山に登り、ひと汗いれた後にやる「CQ,CQ…」は、キュッと冷えた麦ジュースと共に最高の気分を与えてくれます。

「もしもの時に非常通信の手段として」という理由をつけて、少々装備が重くなるのも我慢して山登りの荷物をパッキングする時にも、快晴の空の下での運用を思い描いているのであって、まさかハンディトーカーで自分がOSOを発放する事などみじんも考えていないものです。

しかし私たちがその非常通信を行うべき事態に遭遇したのです。山の上ではなく、我が町に居ながらにして、そしてあの混乱でした。

イザという時のための備えは世の中に色々あります。ラジオ付ライト(これは役に立った、電池が入っていれば)・コンパクト浄水器・インスタント食品多数、そして保険etc……。それらのうちのどれだけのものが役に立ったのでしょうか。尼崎の防災センターに備蓄されている数千枚の毛布にしても、数十万人の市民に対しては一人当たり小数点以下になってしまいます。備えというものはそれほどまでに心許ない

ものなののでしょうか。今回アマチュア無線も同じ様な運命であったなあと私は考え込んでしまいました。

回想? あの日あの時私たちが普段から愛して止まない430MHzFMがあんなに混乱してしまったのか。(他の周波数やモードはワッチしていないのでわかりません)

それは、それぞれの局の被害程度の差による事態認識の違いにあったと思います。

地震直後の停電のため、暗闇の中に懐中電灯に照らし出されたボヤリとした円形の光の中で、ひととおり片づけを終わり、そろそろ白み始めた空にやっと気づいて、窓から入る薄明かりを頼りにリグを予備電源のバッテリーにつないで入感してくる交信は、主にモバイル局の「車が動かない」「流れない」事による嘆きのレポート交換でした。

反射的に私は不快感を覚えました。しばらく我慢してワッチしておりました。時々火事による消防の要請や倒壊現場の救助要請らしきものが耳に入りますが、応答中継すべく間もなく不要不急のレポート交換にかき消されてしまいます。私は沈黙する事で協力体制としようと考え、トランジスタラジオを唯一の正常な情報源として無線のボリュームをしぼってしまいました。

後々になって考えてみれば、商業放送局でも情報が混乱しており(その様子は「毎日放送は何を伝えたか」という本にあるとおり)、彼らモバイル局が感じ見たものこそ真実であり、受信している人たちに伝えるべき情報であったと思います。

しかし事態は良い方向に向きませんでした。何故なら、家屋が倒壊しケガをして惨状の真ん中に居る人々はすぐに非常事態を感じたとしても、それを伝えるべき設備と手段が無い。逆に停電もなくいつも通りであろうとする多数のモバイル局は、ラジオも聞かず、自分の目で見える以外の情報を全て絶たれ、全体の中での自分の役割や位置関係がわからず、ただただ「車が渋滞して動けない」という自分自身の非常事態から脱出する事だけに気を奪われて、正確な情報発信者になるべき点に気づかなかったからだと思います。

「イザという時に役に立つ」は結局その物だけでは役に立たない。しかし「イザという時にどう考えれば良いか」という事を常に頭に入れておけば、己の為すべき事は、その時その場で、必然的に導き出されるのではないのでしょうか。

F T Zが今後5年間の活動の基本の中に非常時のための通信ネットワークの考えを取り入れるのも、このネットワークで公的に役立つべきだと考えるよりも、そういった活動をしながらかつた局が、考える力・行動する方法・取り組んでゆく姿勢をつかんでいけば、それらの総合力がイザという時役立つだろうと思うからです。

「備えよ、常に1」というスローガンは、ボーイスカウトのモットーですが。 私たちも日々無線交信で楽しく過ごす事によって、とっさの時の判断力や行動力を常に備えておきたいものです。まさに「芸は身を助ける」という風に……。

J Q 3 T W Q 満園 聡

## 阪神大震災とアマチュア無線

日高孝一 de JF3WJN

平成7年1月17日午前5時30分、私はビデオを見ており、このビデオもそろそろ終わりに近づいており、これが終了すれば水平飛行に移ろうと思っていた矢先です。阪神大震災に見舞われたのです。

当時の模様については、最初横揺れでした。私は「あれ地震だ、それにしてもけっこう大きいなー」と思った瞬間、「ゴォー」という地響きとともに今度は縦に5~6回揺れだしたのです。私は「やはり」と思って、とっさに机に身を隠したのです。「ドサァ、ガチャン」の物音と同時に停電です。周りは真っ暗で暫くただ呆然とするばかりでした。

やがて懐中電灯を取り出し、家族の安否及び室内の確認をして外に出ました。隣の家でガスもれ発生です。私は自宅に戻り、有線で119番の通報をいたしました。不通です。自動車電話でも不通です。今度はモバイルから430MHzのメインで緊急通信の発信をいたしました。この通信を傍受してくれた局長さんがありましたが、その後の交信は不能です。妨害電波があったからです。この非常時に『犬畜生にも劣る外道』がいたのです。

やむなく近所に「ガスもれ発生」を告げ、火を使わないように呼びかけ、寒さ凌ぎの為、ヒーターを使っている車にエンジンを切るように指示。念のために道路の閉鎖を行ってからガスもれの応急処置をしたのです。

7時30分頃に一人暮らしの実母（尼崎市道意町）に有線で安否の確認、ケガはなし。一人暮らしの義母（兵庫県津名郡淡路町）

・姉の家族（西宮市上大市）・フレンド局（西宮市大社町）3件とも有線連絡、不通です。

8時頃に144MHzでフレンド局を呼び出しますが、応答なし。こうなっては自分の足で確認するほか、手がありません。モバイルで移動いたしました。モバイルQRWの為、バイクに乗り換えて移動です。私の固定からの道順では、先ず姉の家です。ケガはなし。次にフレンド局です。171号線の門戸陸橋は陥没の為、通行できません。それでは「今津線の門戸厄神駅の北の踏切だ」と思い迂回しましたが、ここでは電車が踏切内で脱線、立往生です。更に迂回路を使ってようやくフレンド局宅に到着です。ケガはなし。次に実家の被害状況の確認ですが、西宮市の被害は家屋の全壊で道路を塞ぐ、また山手幹線上に名神高速上り線が落下、更に道路には亀裂が走っている。そしてあちこちで火災の発生。さんざんなものでした。

実家を訪問した後、いったん帰宅しました。それにしても心配なのは義母の安否です。地震の震源地は淡路島の北部だからです。西宮市の災害の状況及び私の固定の被害、またマスコミの報道等々から想像すれば、背筋がゾウーといたします。

私はXYLに甲子園フェリーで淡路島に渡ると告げました。その為には問題点があります。一点はフェリーが就航しているかどうか。もう一点は淡路島に渡れたとして、義母の安否を気遣って固定で留守番をしているXYLに、一刻も早くどの様にQSPするかということです。

そこで私は無線の利用を考えたのです。（私は144MHzのあるクラブに所属しています）私はフレンド局を呼び出し、「淡路島の義母の安否が心配です。有線連

絡が不通の為、バイクで移動します。バイクにはハンディ機を携帯していますが、恐らく私の固定まで波が届かないと思います。まことに申し訳ありませんが、貴局が私の波を受信してから、その通り波を出して反復して下さい。そうすれば私の固定機でXYLがその内容を知る事ができます。私は波を2回出します。1回目はフェリーに乗り込む時です。甲子園フェリーの時刻表によれば、『西宮発12時20分、津名着14時15分』となっています。従って12時20分頃です。2回目は義母の安否が確認できた時です。大体15時頃になる予定です』とお願ひしてバイクを走らせたのです。

#### 1回目の発放

JF3WJN 鳴尾浜モバイル開局。

了解 JF3WJN 鳴尾浜モバイル、こちらはJF3LES 尼崎固定です。どうぞ。

了解 JF3LES 尼崎固定ほか、こちらはJF3WJN西宮モバイルです。定刻から10分遅れで只今からフェリー乗り込み開始です、以上。

了解 WJN局 LESです、反復

#### 2回目の発放

JF3WJN 淡路島モバイル開局、阪神各局入感ありますか、どうぞ。

了解 JF3WJN 淡路島モバイル、こちらはJ03SVC 尼崎固定です、どうぞ。

了解 J03SVC 尼崎固定、こちらはJF3WJN淡路島モバイル、さっそく用件に入ります。義母にケガはなし。家屋の被害については、水道管とブロック塀の一部が壊れた程度のもので、思った以上に軽くて済みました。私は数時間、ここで様子を見てから帰ります、以上3点よろしく。

了解 WJN局 SVCです、反復

交信が終わりました。阪神大震災により有線が不通となり、それに代わる通信手段として無線を利用した訳ですが、私がXYLに淡路島に渡る旨を告げてから、義母の安否を確認して波を出すまで、約3時間半の時間を要したのです。それがたった30秒でQSPできたのです。（波の速度は1秒間に地球を約7周半すると記憶しておりますから、当たり前と言えども当たり前ですが）

私はアマチュア無線をしていて本当に良かったと感動いたしました。そして、多くのフレンド局の友情（フレンド局も被災者であり、家屋の後片づけ等々、仕事が山積みされているにも関わらず、手を止めて協力して頂いた）に感謝いたしました。以上、全てのことに言葉で言い尽くせないほどの感激を覚えたのでした。

それから、私は帰宅してからXYLに「この交信をワッチしていて、実母の安否がわかり目頭が熱くなった。そして、フレンド局にお礼の挨拶ができない（無線の免許がない為）自分が残念でした」と言われたことも付け加えておきます。

追伸

この度、阪神大震災で多くの皆様が被害を受けられました。尊い命を失われた皆様のご冥福をお祈りいたしますとともに、かけがえのない肉親を亡くされた方々や負傷された方々、また大切な家屋や財産をなくされた方々に心からお見舞い申し上げます。私の家屋も基礎から北東方向に少しずれており、建て替えの必要があるように思われますが、被災者の皆様、これからも力強く生き抜いて行こうではありませんか。

## 支援の花は咲いたま

## まの震災後100日

大野智祥

de JIBERQ

「高速道路が落ちとるゾ！」揺れがおさまり、思い出してTH-48をX5000に接続し、スイッチを入れたとたん聞こえたのがこの言葉だった。その後、「芦屋、打出小槌町の情報をお持ちの方知らせてください。こちら〇〇、阪急園田移動↑」と絶叫に近い年配の方の声。

「西宮市上大市〇〇番地。有線が通じません。救急車の手配よろしく」

「了解、手配します」

「ダメです。要請が多く行けないそうです。そちらで対処してくれとの事です」

次々と悲愴な声が飛びこんでくる。

「非常、非常、非常通信ですので、ご配慮よろしく！」の声も後の内容は混信で聞き取れない。

「〇ポイント〇〇のチャンネルがあいています」と事態の異常さに気づき、知らせてくれる局長さん。異常事態を把握できない被災地外の局と混信し、混乱した1995年1月17日の早朝だった。

私は、尼崎市武庫元町に兄といっしょに住む母の所へ電話するが通じない。自転車で走り、屋根は半分落ちていたが無事を確認。電話がどこも通じないとの事で、私の家から堺へ、新潟へ、鹿児島へと一報を入れる。受話器を置くと、兄から「昭和通りへすぐ来てくれ。公衆からや」との電話。昭和通りには親戚がいる。自転車で走り、

付近まで来ると、レスキュー隊のレッカー車や救急車が見える。家はない。壁土の臭いがする。隣の家と二軒分がガレキの山になっているだけだ。兄に聞くと「子供等は病院へ。ケガは軽いと救急隊の人から聞いた。今、奥さんの救出にかかっている。」との事。しかし、2時間後死亡状態で見つけられた。

兄は「神戸の弟の所へ行く。尼崎でこの状態や、向こうはどうなっているか心配や。車はアカン。自転車で行く」と東灘区魚崎北町へ走る。私は尼崎中央署へ行き、他の身内の者が来るまで待機して、病院から帰った遺体の引取りに立合う。家に帰る。家の方は一部損壊程度。家族もあとで考えればゾッとするような事態もあったが、ケガもなく無事であった。弟の方は家は全壊。安否が心配だったが、魚崎小学校の避難所で無事らしいとの情報しか得られなかった。遅くなって、弟から家族もケガなく、深江の義兄の所へ避難しているとの電話が入り、その旨を母親・兄の所へ知らせに走り、ホッとする。

22時頃、JQ3TYL氏にコンタクトができ、私の方の無事を伝えると共に、氏の強力な波を鋭い空中線で神戸方面各局に呼び掛けてもらうことをお願いする。あっという間に1日が終わった。後日弟が話してくれた。「どのようにして外に出たか覚えていない。1週間か10日後に風呂に入った時、体がチクチク痛むので見ると、ガラスの破片がさきっていた。それまで痛みは感じなかった」また、「栄子の伯父・伯母・いとこの計5人(神戸市・芦屋市在住)が亡く

なった。その事には触れんといてくれ」と。

親戚の4人の子供等も「お母さんの「フトンをかぶりなさい！」という声を夢うつつに聞いて、その通りにしてじっとしていたら、レスキュー隊の人が助け出してくれた」と。子供等は2階に寝ていて助かり、母親は1階で朝の支度を始めていて亡くなった。子供等の父親は所用で鹿児島にいた。「震災のニュースを知り、車で帰途についた。不安がかすめ、下関で名を聞くとガックリし、子供等の安否が心配になった。姫路で車の流れが止まり、どうしたよいかウロウロしていたら、ダンプカーの運転手さんが事情を聞き、「オレの後について来い」の声に後を走って行き、気が付くと豊中まで来ていた。どこを走ったか全然覚えていない。その時の運転手さんには感謝している。おかげで通夜に間に合った」と。

被災された方は皆さんこのような、いやもっとすさまじい体験をされたのではないのでしょうか。

さて私は何をしたのか。何も無い。弟の所へ日用品・下着類・防寒着等を兄の一家と自転車で何回か走り、カセットコンロのガスボンベも尼崎では売り切れてない。大阪・豊中あたりでもなく、岸和田の義妹が確保してくれ、それを運んだり、落ち着いてからは、あちらで手に入りにくい食料などを言われるままに、かついで走った事くらいである。生理用品・洗面器・ベルト・文房具は助かったと喜んでくれた。

震災から早100日。親戚の一家は仮設住宅にとりあえず入居し、弟一家も解体工

事の日程も決まり、再建の日処も立った。この点、他の被災者の方々よりめぐまれていると思う。子供等も中学・高校へ進学も決まり、明るさも取り戻しつつあるが、疲れは取れ切っていない。ほんとうに一息つけるのは、もう少し時間がかかると思う。

高校生の娘は募金活動（道路使用許可、学校責任者の許可等の必要なのを知らず、それを取っていなくて止めさせられたりしたが）や避難所でのボランティアに出かけたりしていた。

中学3年だった息子は、親戚の家が一瞬にガレキの山になった姿を見て、何かが変わったように思える。そして、「100年に1度の大地震という考えてもいなかった事が起きた。再生神戸に向けて動き始めているが、今こそ人類の英知を集めて、それに耐えるような街を作っていきたいものだ」と、阪神大震災についての理科の宿題のまどめに書いていた。

このたびの大震災で本当に力を発揮したのは、機械より人の力、知識より知恵、そして人々の暖かい心だったと指摘される。実感である。会社から帰ると「〇〇さんから電話があったヨ」と聞く。覚えがない。ダイヤルを回すと、電波で一度つながった局長さんである。お見舞いの言葉をいただく。そんな事が何度かあった。また、電波でつながると皆さん暖かい言葉で励ましてくださる。アマチュア無線をしていて「よかった！」

街の桜の花は散ったが、多くの方々からの支援の花は咲いたままの震災後100日の今日である。

## 広域災害時の防災体制とアマチュア無線

### まとめ

阪神、淡路大震災以来、救助、復興支援ボランティアの活発な活動とボランティアの今後と組織づくりが報じられています。私達も地域防災、地域交流活動を初めて24年が過ぎていますが、アマチュア無線開局5年、FTZ-FM愛好会での活動5年愛好会の主な活動は、まずルールを守り楽しく運用することでした。

震災後アマチュア無線も例外でなく 非常通信、復興支援通信の組織づくりが検討されていますが、どの様にすれば最良か良くわかりません、一つ言える事はローカル各局が普段の交信を大切に自分の目標と行動範囲を見つめてアマチュア無線を楽しみ心が大切です。

自己通信訓練とFTZ-FM愛好会アイボール会でハンディ機による一斉伝達訓練個別呼び出しを実施した結果 目的を理解して柔軟な活用と行動ができたことは、その場の環境づくりがうまくできたからだと思います。環境づくりと指導の大切さがわかり FTZ-FM愛好会アイボール会では絶えず新しい試みをしてきました、例えば『おでん波パーティー』での催しです、集まれ、右へならべ、きよつけ、番号1と全員で参加人数を確認後、各市(市郡)別に集合して人数を確認、代表者が受付に報告をしました。その様子をサイドから見ていて驚きと素晴らしいと、たくましさを感じました。実は受付に報告するのに一列に並んで順番を待ち\*\*市\*\*人、異常なしと報告をしておられるのです、この事は先程の集合、きよつけ番号の経験がそく生かされたのです、ハム仲間の順応と対応のはやさに驚いています。この様に目的をはっきりと示し環境づくりを大切にすれば大きな力がでるグループ、集まり、組織がアマチュア無線家、ローカルのハム仲間です。

『イザといゆう時に役に立つ』様に普段から考え行動できるグループでありたい  
広域災害時(非難)地域内での非常通信網の立ち上げに努力します。

JARLは非常時早い時期に体制を整え地域内非常通信網間のコントロールと環境づくりを考えなければならないと思います、JARLに期待するところです。

アマチュア無線は日頃の交信を大切に楽しみ

イザといゆう時に役立つ

(アマチュア無線はアマチアでありたい)

阪神・淡路大震災活動報告書

*活動報告	1
*JARL特別開設局実状調査と災害復旧調査行程表	3
*JARL特別開設局連絡概略図と概略業務内容(初期-最後)	5-14
*長田区「8J3AMS」開局活動報告(JA3QVQ 増石)	15
*東灘区「8J3AML」開局活動報告(JA3QVQ 増石)	17
*アマチュア無線局開設とボランティア募集記事	19
*JARL非常通信に参加し疑問点と反省点	21-26
*HAMボランティアの受付から最後の報告書の書式と使用方法	27-32
*非常通信開局運用案	33-34
*阪神・淡路大震災で非常通信業務に関わりその実状と効果・反省	35-43

灘区「8J3AMJ」の協力における提供資料

*母親教室関係	45-46
*問題解決としての情報収集の方法	47
*NGOの意味と理念	49-51
*ボランティアの語源と定義	52-54

ボランティア保険

*大阪府社会福祉協議会「阪神大震災ボランティア行事保険」	55-59
------------------------------	-------

他団体との支援協力

*バヌアツに医療を送る会・阪神大震災地元NGO救援連絡会議 関西NGO協議会・応援する市民の会	61-80
--	-------

各種情報

*西宮現地事務所(入院患者搬送)	81
*輸送サービスと心の相談室	83-84
*新妻情報(助産婦による妊婦・育児相談と安否連絡)	85-87
*非常通信反省会の取材にたいしてCQ編集部への連絡	89

避難所、避難人数等の資料

91-142

神戸市	中央区・長田区・垂水区・須磨区・東灘区・兵庫区 灘区・葺合区・生田区・西区・北区(全区1月19-20日)
宝塚市(1月23日-1月25日)	西宮市(1月24日)
尼崎市(1月25日)	芦屋市(1月24-1月25日)
川西市(1月24日)	伊丹市(1月25日)

## 阪神・淡路大震災に於ける災害救援活動報告書

報告者：小坂 雄二 JN3JLP 〒565 吹田市千里山東2-17 E-608

### 活動の推移

- 1/18 神戸市長田区の市立西市民病院に看護婦2名を派遣、連絡用に430MHzのハンディー機2台持参。  
20.00より安否情報を430MHzのSSB帯をFMで使用開始。長田区→六甲YMCA研修センターを中継し→吹田市より電話でそれぞれの所に連絡。
- 1/20 午前9時頃六甲の中継局長の体調不良で中止。その期間全国各地に610ヶ所。
- 1/28 JARL関西地方本部が新聞を通じ、非常通信の運用、非常通信の支援等のボランティア募集に応募。  
島地方本部長は災害対策の具体案がないので、神戸市長田区で救援医療活動のAMDA（アジア医師連絡協議会）支援局（JARL岡山県支部）の交替要員を関西地方本部より出す等のアレンジと提案を行い8J3AMSとなる。
- 2/ 1 「無線のボランティア募集」朝日新聞に依頼。2月2日、430MHz帯使用の3周波数の名記の記事掲載。
- 2/ 4 JARLは災害救援のネットワークも情報が少ない。オペレーターを行うより私共の海外医療協力NGO「パヌアツに医療を送る会」のネットワークを用い自称コーディネーター的役割を行う事に意義を見つけ行動に移す。  
東灘区保健所内に基地局開設のアレンジと要請を行い8J3AMLとなる。灘区の神戸学生青年センターの無線ロケーション調査と同センターに無線局の設置及びオペレーター宿泊の了解をとる。島本部長に個人宅で運用のJA3YRLの早期移動を強く要請（なぜか2月28日迄移動せず富安一家のプライバシーを大きく侵害した）
- 2/ 6 非常通信業務の概要と連絡概略図（ハンディー移動局、地区基地局、サブセンター局、センター局の概略業務内容記載）を作成、配布。
- 2/11 本部オペレーターは各基地局の運営状況の把握が大切と考え、同時に要望等の打ち合わせ、及び被災避難所5ヶ所の実地調査を行う計画立案に5人が賛同し実施。（訪問基地局JA3YRL：東灘区、8J3AMJ：灘区、8J3AML：東灘区、8J3AMO：芦屋市）
- 2/22 JA3WGL（谷 通好氏）の依頼で8J3AMJ（灘区）メンバーにボランティア活動の行動目標についてアドバイス、8J3AMJは直ちに行動に移すことになる。
- 3/ 5 8J3AMJより、災害により保健所で実施できない「妊産婦母親教室」開催計画の相談を受け医療関係の紹介、保健所との事前連絡方法、PR方法、講習会の進め方、会場の準備などのアドバイス。  
また、母親に配布する資料は、大阪市中央保健所より取り寄せ郵送。3/18「第一回妊産婦母親教室」に間に合わず。
- 4/ 2 「第二回母親教室」にボランティアとして参加。

### 反省と提案

反省は非常通信開始についての「非常通信疑問点と反省点」参照。

提案は「非常通信運用案」参照。

# 阪神大震災後方支援 J A R L 特別開設局実状調査及び災害復旧実体調査

日時 : 平成7年2月11日(土) 祝日 集合 午前8時30分(時間厳守) 阪急梅田駅2F正面自動改札口最左側 J A R L 紙表示

目的 : 特別開設局の運用状況、伝搬状況、運用環境等の後方支援調査  
: 避難各地の環境、居住地の町並み環境、HAM局の実体調査

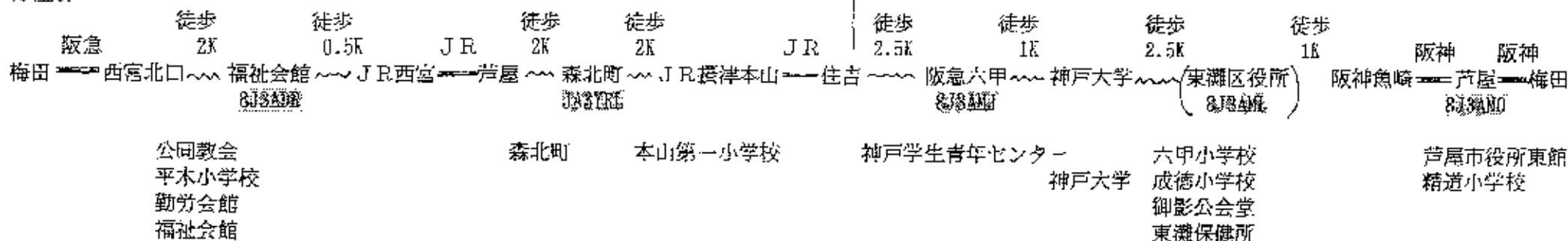
## 調査対象

1) 特別開設局 ~~SJ3ADR~~ (西宮市) ~~JAPPERU~~ (東灘区) ~~SJ3AMJ~~ (灘区) ~~SJ3AME~~ (東灘区) ~~SJ3AMO~~ (芦屋市)

2) 避難施設 西宮市: 公会教会(市民の会事務所 ボランティア集合所) 平木小学校 勤労会館 福社会館  
東灘区: 森北町 本山第一小学校 六甲小学校 成徳小学校 御影公会堂 東灘保健所  
灘区: 神戸学生青年センター 神戸大学  
芦屋市: 芦屋市役所東館 精道小学校

( ) は行程変更の場合

## 行程順



## 持参品

約12KM位歩きますので歩きやすい靴、服装  
昼食  
水  
リグ  
災害救援品及びHAMボランティアに元気づける品物適時持参  
行程中食料品、食事の購入はかなり難しいと思って下さい(無いことはありませんが探すのに苦労します)

集合場所 午前8時30分 阪急梅田駅2F正面自動改札口前の最左側 J A R L 紙表示 梅田着17.00頃

基地区 JA3RI TEL 06-779-1880  
 (大阪市天王寺区:JARL関西西部) FAX 06-779-0488

各局間の連絡の概要

連絡主使用周波数 436.88MHz

基地区局とサブセンター局及び地区コントロール局間との連絡メイン周波数

(通信等の関係を考慮して各地区のコントロール局に主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常通信を円滑に運用する  
 但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地区局に報告する)

サブセンター局 JA3YRL

(奈良区森北町7:個人宅) TEL 078-435-2213 FAX 078-435-2214

地区コントロール局のコールサイン:設置場所:Tel Fax:主使用周波数

(地区コントロール局に直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動、登録し、サブセンター局に報告する)

8J3AAB 長田区役所3F T:030-920-9214 F:078-578-2325 432.70	8J3AAE 東灘区役所1F 保健所情報センター T:078-811-4783 F:078-858-9212 436.50	8J3AAJ 灘区 神戸学生青年センター T:078-851-2780 F:078-821-5878 436.50	8J3AAO 芦屋市役所北館2F 災害対策本部 T:0787-81-2121 F:呼び出し後 436.50	8J3AAN 西区:神戸外大 (レビーター使用) T:078-794-8111 I:休日794-8100 439.54	8J3AAM 西宮市:福祉会館 T:0798-26-9160 F:0798-28-2128 436.72	8J3AAM 西宮市 広田小学校 T:0798-70-4163 439.54	8J3AMK 西区:体育館 T:078-981-1381 439.54	8J3AMM 兵庫区役所 T:078-579-3304 F:078-579-3374 439.54	8J3AMT 中央区 中央ボランティア (バケツ) T:078-579-3304 F:078-579-3374 439.54	8J3AMQ 宝塚市 439.54	JA3CG 兵庫区 078 521 2982	JA3VJ 港区 078 851 0759
---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	-------------------------	------------------------------------	-----------------------------------

神戸学生 神戸大学  
 青年センター 8J3AJN~P  
 8J3AEB 8J3ABC

各機略業務内容

- 各活動地域の対策本部等の管理下に入りその指示により、又自発的な活動等で各避難場所及び周辺の情報収集をしコントロール局へ報告する。(場所と内容)
- 各種救援活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動。
- ハンディ局間の連絡:自発的な各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し運用を行う。
- コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりに行う。
- 1日の概略活動報告書を帰宅前に地区コントロール局に提出する。

地区コントロール局

- 局設置場所の救援対策、災害対策等のセンターの管理下で、その指示によりハンディー移動局間の情報を関係各所に連絡報告。(メモで済す)
- 上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡。(メモ又は無線)
- 電波伝達に注意して通信を円滑にするため、独自に周波数、電波形式を設定し支配下のハンディー局に連絡、その後サブセンター局に報告する。
- 対策本部等にハンディー局から提出された1日の報告書を渡す。
- ハンディー局長の管理、リゲの管理及び運営。
- 直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動させ、必ずサブセンターに報告する。
- 1日の開局前にサブセンター局にその日の概略報告を行なう。

サブセンター局  
JA3YRL

- 各地区の日常運用管理は各地区コントロール局に任せ、各地区の無線の円滑な運営の管理及び補助と開局手配、人員の配分、調整、管理、器材の搬送。
- サブセンター及び地区コントロール局の1日の概略活動状況を21.30頃より436.88MHzで行い、JARL救急活動の情報広報活動を行う。

基地区

JA3RI

- サブセンター局、地区コントロール局間の調整。(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する際の把握)
- サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の秘頼の業務の実施。
- 使用周波数、電波形式の設定、ハムの人員の配分、管理、調整:器材の調達。

<p>地区局レビーター番</p> <p>JR3WA (生駒山) 439.34 1291.06</p> <p>JR3VJ (兵庫区) 439.98</p> <p>JR3VA (西区) 439.54</p> <p>JR3VK (芦屋市) 439.78</p>
---

非常通信業務の概要と連絡各機呼出

(非常通信周波数は436.88 436.72 436.50の3波を使用するが発信を防ぐ為ブレイクアップタイムを十分とること)

基地局 JA3RL TEL 06-779-1680  
(大阪市天王寺区:JARL関西本部) FAX 06-779-0489

各局間の連絡の概略

連絡主使用周波数 436.88MHz 基地局とサブセンター局及び地区コントロール局間との連絡メイン周波数  
(送信等の関係を考えて各地域のコントロール局は主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常通信を円滑に運用する  
但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)

サブセンター局 JA3YRL

(東山区森北町7:個人宅) TEL 078-435-2213 FAX 078-435-2214

地区コントロール局のコールサイン:設置場所:Tel Fax:主使用周波数

(地区コントロール局に直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動、登録し、サブセンター局に報告する)

8J3AME 長田区役所3F T:030-920-9214 F:078-579-2335 432.70	8J3AME 東灘区役所1F 保健所:情報センター T:078-811-4783 F:078-858-0812 436.50	8J3AME 灘区 神戸学生青年センター T:078-851-2760 F:078-821-5878 436.50	8J3AMO 芦屋市役所北館2F 災害対策本部 T:0707-31-2121 F:呼び出し後 438.50	8J3AMN 西区:神戸外大 (レピーター使用) T:078-794-8111 F:休日794-8100 439.54	8J3AMR 西宮市:福祉会館 T:0798-26-9160 F:0798-26-2126 438.72	8J3AMT 西宮市 広田小学校 T:0796-70-4133 F:0798-26-2126	8J3AMK 西区:体育館 T:078-261-1381	8J3AMM 兵庫区役所 T:078-579-3304 F:078-579-3371	8J3AMI 中央区 中央ボランティア (パケット)	8J3AMQ 宝塚市	JA3GK 兵庫区 078 521 2982	JA3NGI 灘区 078 851 9759
---	---	--	--	--	--	--	------------------------------------	---	-------------------------------------	---------------	------------------------------------	------------------------------------

神戸学生 神戸大学  
青年センター 8J3AM-P  
8J3AE 8J3AF

各機業務内容

ハンディー移動局

- :各活動地域の対策本部等の管理下に入りその指示により、又自発的な活動等で各避難場所及び周辺の情報収集をしコントロール局へ報告する。(場所と内容)
- :各種救済活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動。
- :ハンディー局間の連絡:目的的な各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し運用を行う。
- :コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりに行う。
- :1日の概略活動報告書を帰宅前に地区コントロール局に提出する。

地区コントロール局

- :局設置場所の救援対策、災害対策等のセンターの管理下で、その指示によりハンディー移動局間の情報を関係各所に連絡報告。(メモで渡す)
- :上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡。(メモ又は無線)
- :電波伝送に注意して通信を円滑にするため、独自に周波数、電波形式を設定し支配下のハンディー局に連絡、その後サブセンター局に報告する。
- :対策本部等にハンディー局から提出された1日の報告書を渡す。
- :ハンディー局長の管理、リグの管理及び運営。
- :直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動させ、必ずサブセンターに報告する。
- :1日の閉局前にサブセンター局にその日の概略報告を行なう。

サブセンター局

JA3YRL:各地区の日常運用管理は各地区コントロール局に任せ、各地区の無線の円滑な運営の管理及び補助と閉局手配、人員の配分、調整、管理、器材の調達、サブセンター及び地区コントロール局の1日の概略活動状況を21、30頃より436.88MHzで行い、JARL救済活動の情報伝達活動を行う。

基地局

JA3RL:サブセンター局、地区コントロール局間の調整。(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する局の把握)

:サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業務の依頼。

8J3AMN (レピーター局)
8J3WA (宝塚市)
439.34
1291.06
8J3VC (兵庫区)
439.98
8J3VA (西区)
439.54
8J3VK (西宮市)
439.78

基地局 JASRL TEL 06-779-1880  
 (大阪市天王寺区: JARL 関西本部) FAX 06-779-0489

各局間の連絡の概要

連絡主使用周波数 436.88MHz 基地局とサブセンター局及び地区コントロール局間との連絡メイン周波数  
 (混信等の関係を考慮して各地域のコントロール局は主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常通信を円滑に運用する  
 但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)

サブセンター局 JASYRL

(港区山田町2-1-1: 神戸学生青年センター内) T: 078-851-2780 F: 078-821-5878

地区コントロール局のコールサイン: 設置場所: Tel Fax: 主使用周波数 (地区コントロール局に直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動、登録し、サブセンター局に報告する)

8J3AMS 長田区役所3F T:030-020-3214 F:078-579-2336 432.70	8J3AMH 東灘区:住吉小 学校前:情報センター T:078-821-4763 F:078-821-2542 436.50	8J3AMJ 灘区 神戸学生青年センター T:078-851-2780 F:078-821-5878 436.50	8J3AMK 芦屋市役所北館2F 災害対策本部 T:0797-31-2121 F:呼び出し後 436.50	8J3AMN 西区:神戸外大 (レピーター使用) T:078-794-8111 F:休日794-8100 439.54	8J3AMR 西宮市:福祉会館 T:0786-23-9160 F:0708-25-2125 436.72	8J3AMP 西宮市 広田小学校 T:0798-70-1163 F:078-861-1381 439.54	8J3AMQ 西区:体育館 T:078-861-1381 F:078-861-1381 439.54	8J3AMW 兵庫区役所 T:078-579-3304 F:078-579-3374 439.54	8J3AMI 中央区 中央ボランティア T:078-579-3304 F:078-579-3374 439.54	8J3AMX 中央区 中央ボランティア T:078-579-3304 F:078-579-3374 439.54	8J3AMY 中央区 中央ボランティア T:078-579-3304 F:078-579-3374 439.54	8J3AMZ 中央区 中央ボランティア T:078-579-3304 F:078-579-3374 439.54	JAS3G 兵庫区 078 521 2982	JAS3H 灘区 078 851 0756
---	---	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	------------------------------------	-----------------------------------

神戸学生 神戸大学  
 青年センター KJ3AJK~P  
 8J3AEB 8J3AEC

各機務業務内容

ハンディー移動局

- : 各活動地域の対策本部等の管理下に入りその指示により、又自発的な活動等で各避難場所及び周辺の情報収集をしコントロール局へ報告する。(場所と内容)
- : 各種救援活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動。
- : ハンディー局間の連絡: 自発的な各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し運用を行う。
- : コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりに行う。
- : 1日の概略活動報告書を帰宅前に地区コントロール局に提出する。

地区コントロール局

- : 局設置場所の救援対策、災害対策等のセンターの管理下で、その指示によりハンディー移動局間の情報を関係各所に連絡報告。(メモで渡す)
- : 上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡。(メモ又は無線)
- : 電波伝搬に注意して通信を円滑にするため、独自に周波数、電波形式を設定し支配下のハンディー局に連絡、その後サブセンター局に報告する。
- : 対策本部等にハンディー局から提出された1日の報告書を渡す。
- : ハンディー局長の管理、リグの管理及び運営。
- : 直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動させ、必ずサブセンターに報告する。
- : 1日の初局前にサブセンター局にその日の概略報告を行なう。

サブセンター局

JASYRL

- : 各地区の日常運用管理は各地区コントロール局に任せ、各地区の無線の円滑な運営の管理及び補助と開局手配、人員の配分、調整、管理、器材の調達。
- : サブセンター及び地区コントロール局の1日の概略活動状況を21、30頃より436.88MHzで行い、JARL 救援活動の情報伝達活動を行う。

基地局

JASRL

- : サブセンター局、地区コントロール局間の調整。(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する局の把握)
- : サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業務の実施。
- : 使用周波数、電波形式の設定、HAMの人員の配分、管理、調整: 器材の調達。

無線局(レピーター局)
JR3WA (生駒市)
439.34
1291.06
JR3VC (兵庫区)
439.98
JR3VA (西区)
439.54
JR3VK (芦屋市)
439.78

非常通信業務の概要と連絡各機略図

(非常通信周波数は436.88 436.72 436.50の3波を使用するが帯域を防ぐ為ブレイクアップタイムを十分とること)

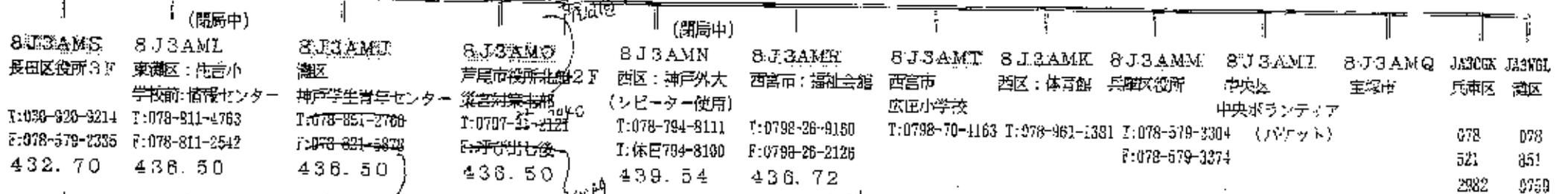
基地局 JASRI TEL 06-779-1880  
 (大阪市天王寺区: JARL関西本部) FAX 06-779-0489

各局間の連絡の概略

連絡主使用周波数 436.88MHz 基地局とサブセンター局及び地区コントロール局間の連絡メイン周波数  
 (通信等の確保を考慮して各地域のコントロール局は主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常通信を円滑に運用する  
 但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)

サブセンター局 JASRI  
 (港区山田町3-1-1: 神戸学生青年センター内) T: 078-851-2760 F: 078-821-5678

地区コントロール局のコールサイン: 設置場所: Tel Fax: 主使用周波数 (地区コントロール局に直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動、登録し、サブセンター局に報告する)



各機略業務内容

ボランティア移動局

- : 各活動地域の対策本部等の管理下に入りその指示により、又自発的な活動等で各避難場所及び周辺の情報収集をしコントロール局へ報告する。(場所と内容)
- : 各種救援活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動。
- : ハンディー局間の連絡: 自発的な各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し運用を行う。
- : コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代行を行う。
- : 1日の概略活動報告書を帰宅前に地区コントロール局に提出する。

地区コントロール局

- : 設置場所の救援対策、災害対策等のセンターの管理下で、その指示によりハンディー移動局間の情報を関係各所に連絡報告。(メモで渡す)
- : 上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供又は情報提供場所に連絡。(メモ又は無線)
- : 電波伝播に注意して通信を円滑にするため、独自に周波数、電波形式を設定し支配下のハンディー局に連絡、その後サブセンター局に報告する。
- : 対策本部等にハンディー局から提出された1日の報告書を受す。
- : ハンディー局長の管理、リグの管理及び運営。
- : 直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動させ、必ずサブセンターに報告する。
- : 1日の閉局前にサブセンター局にその日の概略報告を行なう。

サブセンター局

- JA3YRI
- : 各地区の日常運用管理は各地区コントロール局に任せ、各地区の無線の円滑な運営の管理及び補助と閉局手配、人員の配分、調整、管理、器材の搬送。
- : サブセンター局及び地区コントロール局の1日の概略活動状況を21、30頃より436.88MHzで行い、JARL救済活動の情報広報活動を行う。

基地局

- JA3RI
- : サブセンター局、地区コントロール局間の調整。(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する局の把握)
- : サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業者の実施。
- : 使用周波数、電波形式の設定、HAMの人員の配分、管理、調整、器材の搬送。

登録済ハンディー局

JA3WA (生駒山)	436.34
	1291.00
JA3VU (兵庫区)	439.98
JA3VA (西区)	439.54
JA3VK (芦屋市)	436.78

各局間の通路的接続

連絡主使用周波数 436.88MHz (基地局とサブセンター局及び地区コントロール局間との連絡メイン周波数)  
 (通信等の関係を考慮して各地域のコントロール局は主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常通信を円滑に運用する  
 但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)

サブセンター局 JA3YRI  
 (灘区山田町3-1-1:神戸学生青年センター内) T:078-851-2760 F:078-821-5878

地区コントロール局のコールサイン:設置場所:Tel Fax:主使用周波数 (地区コントロール局に直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動、登録し、サブセンター局に報告する)

(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)	
8J3AMS 長田区役所3F T:030-920-9214 F:078-579-2335 432.70	8J3AML 東灘区:住吉小 学校前:情報センター T:078-811-4763 F:078-811-2642 436.50	8J3AMB 灘区 神戸学生青年センター T:078-851-2760 F:078-821-5878 436.50	8J3AMC 芦屋市役所北館2F 災害対策本部 T:0797-31-2123 F:呼び出し後 436.50	8J3AMN 西区:神戸外大 (レピーター使用) T:078-764-8113 F:休日794-8100 439.54	8J3AMR 西宮市:福祉会館 T:0798-25-9160 F:0798-26-2126 436.72	8J3AMT 西宮市 広小小学校 T:0798-70-4163	8J3AME 西区:体育館 T:078-951-1381	8J3AMM 兵庫区役所 T:078-579-3304	8J3AMI 中央区 中央ボランティア T:078-579-3374	8J3AMQ 宝塚市 (パケット)	JA3CR 兵庫区 576 521 2982	JA3RL 灘区 078 851 0750			

神戸学生  
青年センター 8J3A3K~F  
8J3AB 8J3AC

各活動場所の  
ハンディー移動局

:各活動地域の対策本部等の管理下に入りその指示により、又自発的な活動等で各避難場所及び周辺の情報の収集をしコントロール局へ報告する。(場所と内容)  
 :各種救援活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動。  
 :ハンディー局間の連絡:自発的な各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し巡行を行う。  
 :コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりに行う。  
 :1日の概略活動報告書を提出前に地区コントロール局に提出する。

地区コントロール局

:局設置場所の救援対策、災害対策等のセンターの管理下で、その指示によりハンディー移動局間の情報を関係各所に連絡報告。(メモで渡す)  
 :上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡。(メモ又は無線)  
 :電波伝播に注意して通信を円滑にするため、独自に周波数、電波形式を設定し支配下のハンディー局に連絡、その後サブセンター局に報告する。  
 :対策本部等にハンディー局から提出された1日の報告書を受け。  
 :ハンディー局長の管理、リグの管理及び運営。  
 :直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動させ、必ずサブセンターに報告する。  
 :1日の閉局前にサブセンター局にその日の概略報告を行なう。

サブセンター局  
JA3YRI

:各地区の日常運用管理は各地区コントロール局に任せ、各地区の無線の円滑な運営の管理及び補助と閉局手配、人員の配分、調整、管理、器材の調達。  
 :サブセンター及び地区コントロール局の1日の概略活動状況を21、30頃より436.88MHzで行い、JARL救援活動の情報広報活動を行う。

基地局  
JA3RL

:サブセンター局、地区コントロール局間の調整。(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する局の把握)  
 :サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業務の実施。  
 :使用周波数、電波形式の設定、HAMの人員の管理、調整、器材の調達。

災害対策レピーター局
JR3WA (生駒山) 439.34 1291.06
JR3VU (兵庫区) 439.98
JR3VA (西区) 439.54
JR3VK (芦屋市) 439.78

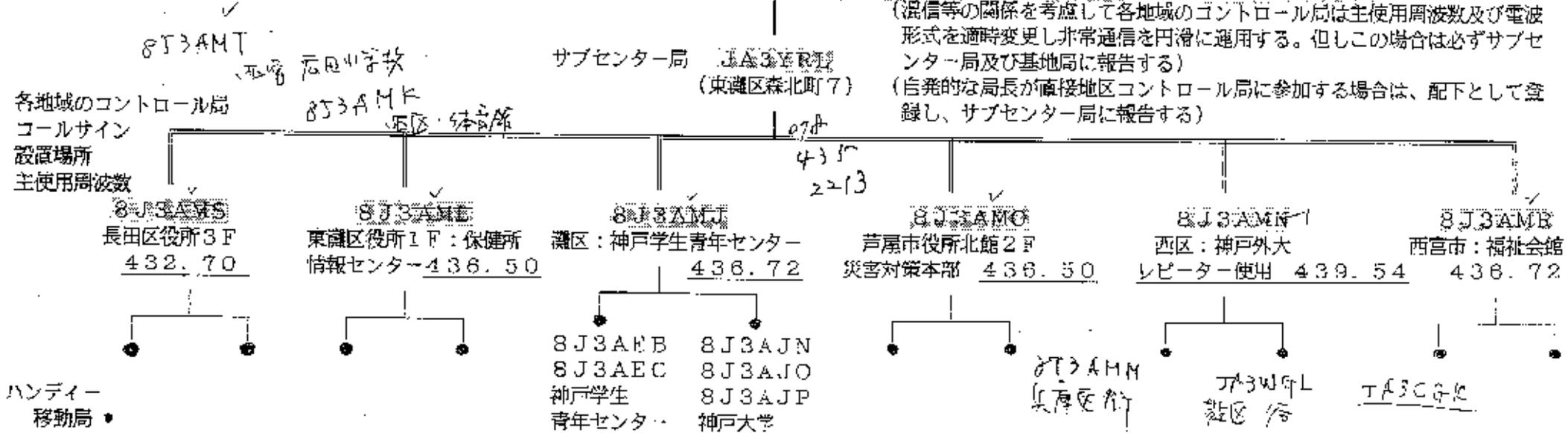
### 非常通信業務の概要と連絡概略図

(非常通信周波数は436.88 436.72 436.50の3波を使用するが混信を防ぐ為ブレイクアップタイムを十分とること)

基地局 JA3RE TEL 06-779-1680  
(大阪市天王寺区:JARL関西本部) FAX 06-779-0489

各局間の連絡の概略

連絡主使用周波数: 436.88 MHz 基地局とサブセンター局及び地区コントロール局間との連絡メイン周波数



(混信等の関係を考慮して各地域のコントロール局は主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常通信を円滑に運用する。但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)  
(自発的な局長が直接地区コントロール局に参加する場合は、配下として登録し、サブセンター局に報告する)

各ハンディー移動局

#### 概略業務内容

- : 活動地域の対策本部等の管理下に入りその指示により、又自発的な活動等で各避難場所及び周辺の情報収集及びコントロール局への報告(場所と内容)
- : 各種救援活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動。1日の作業報告書を帰宅前に地区コントロール局に提出
- : ハンディー局間の連絡(各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し運用を行う)
- : コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりに行う

地区コントロール局

- : 作業は局設置の救援対策、災害対策等のセンターの管理下で、その指示でハンディー移動局の情報を関係各所に連絡報告(メモで渡す)
- : 上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡(メモ又は無線)
- : 混信を最小限にするため、周波数、電波形式を設定する。閉局前にサブセンター局に1日の報告を行ない、対策本部等にハンディー局の報告を提出

サブセンター局

- : 作業管理は各地区コントロール局に任せ、各地区の無線の円滑な運営の管理と開局手配、人員の配分、調整、器材の調達
- : サブセンター及び地区コントロール局の1日の状況を21.30頃より436.88MHzで行い、ワッチ局に対しての情報伝報活動をする

基地局

- : サブセンター局、地区コントロール局間の調整(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する局の把握)
- : サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業務の実施
- : 使用周波数、電波形式の設定、HAMの人員の配分、調整、器材の調達

Handwritten signature and notes at the bottom right of the page.

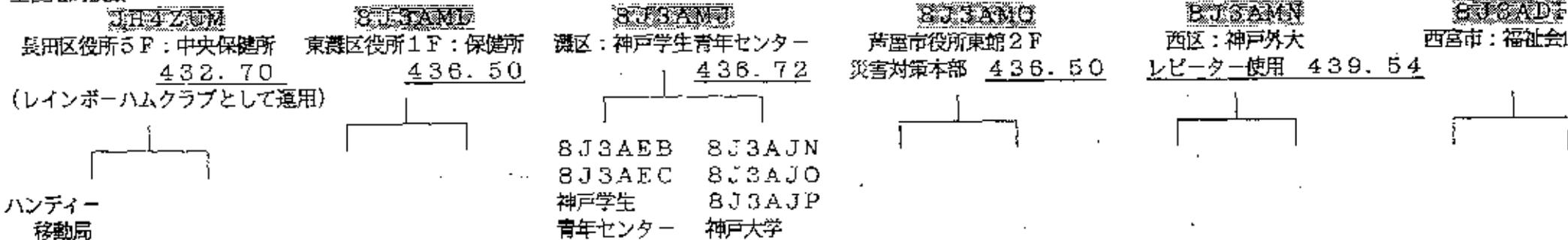
基地局 JARL TEL 06-779-1680  
 (大阪市天王寺区:JARL関西本部) FAX 06-779-0489

各局間の連絡の概略

連絡主使用周波数 436.88MHz 基地局とサブセンター局及び各地区コントロール局間の連絡メイン周波数  
 (混信等の関係を考えて各地域のコントロール局は主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常態得を円滑に運用する。但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)  
 サブセンター局 JARL (東灘区森北町7) (自発的な局長が直接地区コントロール局に参加する場合は、配下として登録し、サブセンター局に報告する)

各地域のコントロール局

コールサイン  
設置場所  
主使用周波数



概略業務内容

各ハンディー移動局

- :各遊樂場所及び周辺の情報の収集及びコントロール局への報告(場所と内容)
- :各種救援活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動
- :ハンディ局間の連絡(各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し運用を行う)
- :コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりに行う

地区コントロール局

- :ハンディー移動局の情報を身近な関係各所に連絡報告(メモで渡す)
- :上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡(メモ又は無線)
- :混信を最小限にするため、周波数、電波形式を設定する。基地局、又はサブセンター局に1日の報告を大体18,00頃行う事を原則とする

サブセンター局

- :各地区コントロール局の開局手配、人員の配分、調整、器材の調達
- :サブセンター及び地区コントロール局の1日の状況を21,30頃より436.88MHzで行い、ワッチ局に対しての情報広報活動をする

基地局

- :サブセンター局、地区コントロール局間の調整(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する局の把握)
- :サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業務の実施
- :使用周波数、電波形式の設定、ハムの人員の配分、調整:器材の調達

# 非常通信業務の概要と連絡概略図

(非常通信周波数は436.88 436.72 436.50の3波を使用するが混信を防ぐ為ブレイクアップタイムを十分とること)

(初建9分)

1975.2.6日

基地局 JARL TEL 06-779-1880  
(大阪市天王寺区:JARL関西本部) FAX 06-779-0489

サブセンター局 JARL  
(東灘区森北町7)

連絡主使用周波数 436.88MHz  
(基地局とサブセンター局及び地区コントロール局間との連絡メイン周波数)  
(混信等の関係を考慮して各地域のコントロール局の主使用周波数は適時変更し、変更後は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)

各局間の連絡の概略

各地域のコントロール局

コールサイン  
設置場所  
主使用周波数

JH4ZUM

JH4NZC-JG3FDG

長田区役所5F:中央保健所  
432.70

(レインボーハムクラブとして運用)

8J3AML

東灘区役所1F:保健所  
436.50

8J3AMJ

灘区:神戸学生青年センター  
436.72

8J3AMO

芦屋市役所東館2F  
災害対策本部 436.50

8J3AMN

西区:神戸外大  
レビター使用 439.54

8J3ABR

電話:1772/216

8J3AEB 8J3AJN  
8J3AEC 8J3AJO  
神戸学生 8J3AJP  
青年センター 神戸大学

ハンディー  
移動局

各ハンディー移動局

概略業務内容

- :各避難場所及び周辺の情報の収集及びコントロール局への報告(場所と内容)
- :各種救援活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動
- :ハンディ局間の連絡
- :コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりに行う

地区コントロール局

- :ハンディー移動局の情報を身近な関係各所に連絡報告(メモで渡す)
- :上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡(メモ又は無線)
- :基地局、又はサブセンター局に1日の報告を大体18:00頃行う

サブセンター局

- :各地コントロール局の人員の配分、調整、器材の調達
- :サブセンター及び地区コントロール局の1日の状況を21:30頃より436.88MHzで行う

基地局

- :サブセンター局、地区コントロール局間の調整
- :サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業務の実施
- :ハムの人員の配分、調整:器材の調達

本JARL  
03-5395-3119

連絡先  
JARL

43300

各局間の連絡の概略

連絡主使用周波数 436.88MHZ | 基地局とサブセンター局及び地区コントロール局間との連絡メイン周波数  
 (混信等の関係を考慮して各地域のコントロール局は主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常通信を円滑に運用する  
 但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)

サブセンター局 JA3YRL

(灘区山田町3-1-1:神戸学生青年センター内) T:078-842-2122 F:078-842-2122

地区コントロール局のコールサイン:設置場所:Tel Fax:主使用周波数 (地区コントロール局に直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動、登録し、サブセンター局に報告する)

(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)		(閉局中)	
8J3AMS 長田区役所3F T:030-920-9214 F:078-579-2335 432.70	8J3AML 東灘区:住吉小 学校前:情報センター T:078-811-4763 F:078-811-2542 436.50	8J3AMJ 灘区 神戸学生青年センター T:078-842-2122 F:078-842-2122 436.50	8J3AMO 芦屋市浜芦屋町 救援対策本部 T:0797-22-7040 F:0797-22-6489 436.50 レピータ 1292.04	8J3AMN 西区:神戸外大 (レピータ使用) T:078-794-8111 F:休日794-8100 439.54	8J3AMR 西宮市:福祉会館 T:0798-26-9180 F:0798-26-2128 436.72	8J3AMT 西宮市 広田小学校 T:0798-70-4163	8J3AMK 西区:体育館 T:078-961-1381	8J3AMM 兵庫区役所 T:078-579-3304 F:078-579-3374	8J3AMI 中央区 中央ボランティア (パケット)	8J3AMQ 宝塚市	JA3CGK 兵庫区	JA3WGL 灘区	

神戸学生  
青年センター 8J3AJN~P  
8J3AEB 8J3AEC

各概略業務内容  
 ハンディー移動局

- :各活動地域の対策本部等の管理下に入りその指示により、又自発的な活動等で各避難場所及び周辺の情報の収集をしコントロール局へ報告する。(場所と内容)
- :各種救援活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動。
- :ハンディー局間の連絡:自発的な各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し運用を行う。
- :コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりを行う。
- :1日の概略活動報告書を帰宅前に地区コントロール局に提出する。

地区コントロール局

- :局設置場所の救援対策、災害対策等のセンターの管理下で、その指示によりハンディー移動局間の情報を関係各所に連絡報告。(メモで渡す)
- :上記の連絡報告の実施状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡。(メモ又は無線)
- :電波伝送に注意して通信を円滑にするため、独自に周波数、電波形式を設定し支配下のハンディー局に連絡、その後サブセンター局に報告する。
- :対策本部等にハンディー局から提出された1日の報告書を渡す。
- :ハンディー局長の管理、リグの管理及び運営。
- :直接ボランティア局長がきた場合はその支配下で活動させ、必ずサブセンターに報告する。
- :1日の閉局前にサブセンター局にその日の概略報告を行なう。

サブセンター局  
JA3YRL

- :各地区の日常運用管理は各地区コントロール局に任せ、各地区の無線の円滑な運営の管理及び補助と閉局手配、人員の配分、調整、管理、器材の調達。
- :サブセンター及び地区コントロール局の1日の概略活動状況を21.30頃より436.88MHZで行い、JARL救援活動の情報広報活動を行う。

基地局  
JA3RL

- :サブセンター局、地区コントロール局間の調整。(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する局の把握)
- :サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業務の実施。
- :使用周波数、電波形式の設定、HAMの人員の配分、管理、調整:器材の調達。

無線対策レピーター局	
JR3WA (生駒山)	439.34 1291.06
JR3VU (兵庫区)	439.98
JR3VA (西区)	439.54
JR3VK (芦屋市)	439.78

非常通信業務の概要と連絡概略図

(非常通信周波数は436.88 436.72 436.50の3波を使用するが混信を防ぐ為ブレイクアップタイムを十分とること)

基地局 JA3RL TEL 06-779-1680  
(大阪市天王寺区:JARL関西本部) FAX 06-779-0489

各局間の連絡の概略

連絡主使用周波数 436.88MHZ

基地局とサブセンター局及び地区コントロール局間との連絡メイン周波数

(混信等の関係を考慮して各地域のコントロール局は主使用周波数及び電波形式を適時変更し非常通信を円滑に運用する  
但しこの場合は必ずサブセンター局及び基地局に報告する)

サブセンター局 JA3YRL

(灘区山田町3-1-1:神戸学生青年センター内) T:078-842-2122 F:078-842-2122

地区コントロール局のコールサイン:設置場所:Tel Fax:主使用周波数

(地区コントロール局に直接ボランティア局長が来た場合はその支配下で活動、登録し、サブセンター局に報告する)



各概略業務内容

ハンディー移動局

- :各活動地域の対策本部等の管理下に入りその指示により、又自発的な活動等で各避難場所及び周辺の情報の収集をしコントロール局へ報告する。(場所と内容)
- :各種救急活動ボランティア及び行政の円滑な運営をサポートするための通信活動。
- :ハンディー局間の連絡:自発的な各ハンディー局長は地区コントロール局に登録し運用を行う。
- :コントロール局に情報提供したその結果を情報発信地に必ず連絡。出来ない場合はコントロール局に連絡して他局が代わりに行う。
- :1日の概略活動報告書を帰宅前に地区コントロール局に提出する。

地区コントロール局

- :局設置場所の救援対策、災害対策等のセンターの管理下で、その指示によりハンディー移動局間の情報を関係各所に連絡報告。(メモで渡す)
- :上記の連絡報告の実地状況を関係各所より連絡してもらい、情報提供局又は情報提供場所に連絡。(メモ又は無線)
- :電波伝搬に注意して通信を円滑にするため、独自に周波数、電波形式を設定し支配下のハンディー局に連絡、その後サブセンター局に報告する。
- :対策本部等にハンディー局から提出された1日の報告書を渡す。
- :ハンディー局長の管理、リグの管理及び運営。
- :直接ボランティア局長がきた場合はその支配下で活動させ、必ずサブセンターに報告する。
- :1日の閉局前にサブセンター局にその日の概略報告を行なう。

サブセンター局  
JA3YRL

- :各地区の日常運用管理は各地区コントロール局に任せ、各地区の無線の円滑な運営の管理及び補助と開局手配、人員の配分、調整、管理、器材の調達。
- :サブセンター及び地区コントロール局の1日の概略活動状況を21.30頃より436.88MHZで行い、JARL救援活動の情報広報活動を行う。

基地局  
JA3RL

- :サブセンター局、地区コントロール局間の調整。(各地区コントロール局と直接コンタクトして運用する局の把握)
- :サブセンター局、地区コントロール局で手に負えない部分の依頼の業務の実施。
- :使用周波数、電波形式の設定、ハムの人員の配分、管理、調整:器材の調達。

無線対空レピーター局
JR3WA (生駒山) 439.34 1291.06
JR3VU (兵庫区) 439.98
JR3VA (西区) 439.54
JR3VK (芦屋市) 439.78

長田区AMDAでの稼働報告

JATGVO

日付	GTH対象	HAM対象	稼働時間	稼働台数	稼働状況	備考
1/29	長田区AMDA	6	30	110W, GP 2台 (AMDA)	JATGVO, JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL	稼働正常
1/30	"	1	1	"	JATGVO	稼働正常
1/31	AMDA	1	A-2	"	JH3JDL	稼働正常
2/1	AMDA	4	4	"	JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL	稼働正常
2/2	"	"	"	AMDA	JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL	稼働正常
2/3	"	"	4	20	JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL, JH3JDL	稼働正常
2/4	"	"	"	"	JH3JDL, JH3JDL	稼働正常
2/5	"	"	"	"	JH3JDL	稼働正常
2/8	"	"	"	"	JH3JDL	稼働正常

備考欄の補足情報:

- 1/29: 稼働正常
- 1/30: 稼働正常
- 1/31: 稼働正常
- 2/1: 稼働正常
- 2/2: 稼働正常
- 2/3: 稼働正常
- 2/4: 稼働正常
- 2/5: 稼働正常
- 2/8: 稼働正常

2/4 4:30 平野隆光 (JA3QVA JE3LUA)  
 5:30 JR立花S加一机 (JH4KHY 兼車)  
 6:30 東灘区役所着  
 8:30 " 亀田作長とあつ屋工務館  
 9:00 屋上GP Ant設置完了 SWR = 1.1  
 9:17 JA3YRLへ設置完了報告 QSO  
 11:00 亀田信彦に屋上使用完了報告  
 18:00 JA3QVA, JH4KHY, JE3LUA 東灘区  
 での設置運用のレポート完了 披露  
 24:20 平野隆光  
 -----  
 Ant 18mH GP 同軸由 30m + 20m 定角付  
 HS-WX1 (33mW電)  
 電称 DM005  
 1219 IC-381 144.43010W 1.2m 20台  
 QTH 東灘区役所内 1F 階建所管内赤十字横  
 Freq 436.50MHz  
 Call sign: 8J3AML

JJA3QVA 東灘区AMD A 経路者  
 JH4KHY 東灘区保健所 也新 7 9 40  
 JE3LUA  
 J03TDR 東灘区AMD A 経路者  
 JH3XND  
 JH3LJU 2/4 宿泊 2/5 午前中OK  
 J03BLM  
 JP3HIH 基地局への移行の応援隊  
 JI3GKP  
 JG7XKC 10:00 までトホトホ 12m 10m  
 J03HDD YRL 計算 3 Beat 搬入  
 JA3XBY Jand 局 2/3 7 10 1.2m 20台  
 JI3SFX 搬入  
 JN3JLP XYL さん 共に 搬入  
 \* 東灘区役所内 無線機 表 使用許可 交渉 完了  
 告知 搬入 (JN3JLP) に 東灘区 の 情報 也  
 11 時 まで 方 願 心 快 諾 記 録 いた 未 札 必  
 又 帰 東 灘 区 又 早 上 申 告 也 毎 日 1 根 据 也 也



## 非常通信開始についての疑問点と反省点

1/28

- (1) 周波数確保が当面の目的というが、非常通信ならばどこの周波数を使用してもいいはずである。それが436.50, 436.72, 436.88の3波が郵政大臣から許可されたとはどういうことか？  
JARLが非常通信を自発的におこなうのか、郵政大臣の指示により行うのか？  
JARLの関西地方本部が主体で非常通信を行うのに何か遠慮した、又は恐る恐る行う様な言動が為されている。(非常通信を行うのにその目的がおかしいと批判する人がいるので、団体としてこれを行うのに苦慮している。・・・地方本部長談)  
非常通信を個人で行うのに限度がありそれを社団法人JARLという組織団体が主体になり、組織的に活動するのに何の引け目があるのか不思議である。ただしいずれの場合でも非会員がいつでも入って来ることを念頭に入れておくことが肝要である。
- (2) 団体を非常通信を行うのに多数のHAMを動員する必要がある。その方法は  
イ) マスコミに呼び掛け報道してもらう。  
ロ) 430MHzのメインで呼び掛ける。  
いずれも非常通信使用周波数3波を知らせてHAMボランティアを募集する意見に対し、この周波数を一搬に公開するとそこに又妨害電波が入るのでシークレットにしなくてはいけないとの兵庫県支部の一役員の意見もあった。  
しかしこの会合の総意で非常通信をシークレットで行う方が更におかしいとの意見で公開する事になった。しかし関西地方本部としてはこの総意をすぐに実行しなかったのはなぜか？  
イ) については2/2(1/29以降、関西地方本部から朝日新聞に何の要請もない事が解り  
 当方より急遽2/1に連絡し2/2に掲載してもらった)に掲載された。  
ロ) についてはどの程度行われたか疑問である。(メインで聞いた局長がいないため)
- (3) 被災地の地区コントロール局の開設が急務であるが、ボランティアの混成チームを編成するよりJARL登録クラブ局を利用する方が能率的で効果が上がると考え、その協力要請を関西地方本部にお願いしたが、本部長よりの要請がないので受けられないとの事務局長の返事であり、事務局が当初非常通信に非常に非協力的であった。  
又1/29よりJARLをAM10.00-PM7.00迄運用しているにも関わらず、運用局と事務局とが単独に行動し、事務局は通常の定時帰宅を行い非協力的であった。  
非常通信を行うのに関西地方本部がボランティアを集めそこが主体的に行うならば、通常の組織運営のルートでは無理があり、新たな非常通信委員会を作りそこで検討し指示、命令、方針を出さないと混乱を起こすことは明白である。そのため何回も本部長に委員会の設置を要請したが最後まで無視された為、その後の地区コントロール局開設、JARLの移動、閉局、非常通信の終了等にその都度トラブルが発生し、無駄な労力を費やした。
- (4) 1/28現在では200台のリグの配付先が不明で(誰が何処に配布したか当日の席上では本部長としても全く把握できていない)ボーイスカウト、青年会議所、そして無線従事者の免許

が無い人等に配布したらしいが、1/28現在は使用されていないとの兵庫県支部一役員の話であった。

必要な場所に必要な品物を配布する事が大切なのに使用方法等が説明されずにただ配布されれば無用の長物で邪魔な品物となり放置されてしまう。(西宮市共同教会内現地事務所にはすでに固定局のアンテナ、リグが設置されていたがオペレーターが配置されないので無用の品物となり救援物資の下に埋もれ最後まで使用されなかった。この件は1/28には本部長は当事者であり充分知り尽くしていたが、何故か話がでなかった)この件が神戸で適時開かれていた被災地救援ボランティアグループ連絡会議に議題として報告され、それ以後地区コントロール局開設にあたり、アマチュア無線は必要ないと拒否反応が各所で言われる原因となり、その後の基地局開設にあたりより困難と多くの説明を要した。

- (5) 配布リグの使用に当たり説明書を充分読まないで現在のハイテクリグの運用が出来ない為、特に初めて430MHzのハンディー機を使用する局長は当初困難を伴い、満足な通信ができなかった。

(チャンネル固定、混信の場合の通信手段、HF専門家、SSB専門家はVHFのFM特有なブレイクアップタイムを取る意味等が解らなく、混信等で通信が不可能になった時の解決法ができなかった)

- (6) 1/28より非常通信業務が動き始めた時、被災地では既に電気は80%以上通じ、電話もほぼ開通し、特に携帯電話が行き届いていた。それでも尚アマチュア無線の利用を行うならば、イ)利点(話中がなく、情報がすぐ入り、しかも同時に大勢が聞いているので情報の訂正がなされたりしてより正確な情報が得られる。その為救援ボランティアと行動を共にし、通信を手足の用に利用し、救援センターと行政間との連絡を密に、正確に、早く情報交換が出来るので無駄が省かれる等の説明が充分なされていなかった)

- (7) 非常通信は周波数を固定化するべきでなく、混信を避けスムーズな運用がなされなければいけない。

今回はJARL地方本部局が運用しているので指定された3波以外は電波法違反になるとの意味の分からない意見がまかり通り混信があり通信が不可能になっても他の周波数への移行方法の指示がなされなかった。これについては本部長にも強く変更の要請をし、JA3YRLと地区コントロール局との連絡はこの3波を使用し、各地区コントロール局内では混信が少ないSSB帯をFMで使用せる等の適時運用周波数等は現地に任せる様に本部長に要請をしたが受け入れられなかった。仕方なくJARL本部に連絡を取り広報課長の松田氏と意見交換し、その真意が理解され同意が得られ本部より地方本部に連絡する事で話がついたが最後まで関西地方本部の見解は無く何等改善されなかった。ここで一番苦勞したのは最先端で活動したハンディー機使用の局長であった。

それよりも関西本部では同時に違法局の摘発を行なうなど、これが非常通信に係る人の在り方かどうか大いに疑問である。

- (8) 1/28関西地方本部が非常通信を行う事で召集されたのにその席上、「さあ何をやりましょ

うか」はないと思う。

仕方がないので当方のネットワーク（関西NGO協議会：関西地方で海外協力ボランティア活動をしている22団体の協議会で8年前に結成された）の情報で長田区役所で活動しているAMD A（アジア医師連絡協議会JH4ZUM：レインボーハムクラブ）の無線局長（岡山のタケヤリ氏グループ）が風邪でダウンし交代要員の要請がいることを報告した。その席上JA3QVQ（増石氏）グループがそれを引き受け翌28日に長田区の活動地点に入り大阪向けアンテナ調整と常駐局長（JO3TDQ）を決め引き継ぎを完了した。この速攻力こそが非常の時に一番必要な良い見本であった。

この件に関しタケヤリ氏より丁寧なお礼の電話があり、その反面今回の関西地方本部の動きについて最後の総括では反省と今後の展開についてお互いに充分話し合いが必要との見解が話された。

それ以後関西地方本部、JA3YRLは災害救援等について何のネットワークを持ち合わせない事が解り、JA3RLの運用メンバーでありながら今必要な問題を解決するのに単にオペレーターを行うよりも、僭越ながら当方のネットワークを使い自称コーディネーター的役割を行うことに意味があると確信し行動に移した。

このネットワークの利用は増石グループと共に2/4東灘区保健所の亀田保健事業係長の了解のもとに（条件はオペレーターが常勤）8J3AML開局のアンテナ及びリグ設置し地区コントロール局が開設された。その日の午後8J3AMJ及びJA3YRLの基地となる灘区、神戸学生青年センターのロケーションの下検分と、局設置と局長の宿泊の了解をとった。

当日、神戸学生青年センターの飛田館長よりアマチュア無線の情報が聞きたいとの要望に対して、当所にハンディー機2台、8J3AEB、8J3AEC（電気がきているのに乾電池使用は経費がかかるので、充電式の個人のリグと交換貸し出しをした）又神戸学生青年センター所員から神戸大学救援センターも情報収集に困っているとの事が話され、急速増石グループ共々現場を観察し、8J3AML（東灘区保健所内地区コントロール局）在庫3台、8J3AJN、8J3AJ0、8J3AJPを配置した。

2/4日にはプライバシー等の問題を勘案し個人宅での開局のJA3YRLの早期移転を関西地方本部長に要請したが（六甲YMCA研修センター又は神戸学生青年センターが電波伝搬に好位置な場所であり個人宅でなく当方のネットワークのグループであるのでセンター局の移動と宿泊についていち早く了解をとっていた）なぜか2/28日這個人宅で運用された。個人のプライバシーについて本部長、兵庫県支部は一体どう考えていたのか大いに疑問視するところである。

- (9) JA3YRLはセンター局とは名前だけで地区コントロール局の把握を行わず、ただ単独に1個人の救援活動の手助けをしていた時期が多くあり、1日の定時報告もYRL局の活動だけで終始していた。さらに酷いことには物資提供の感謝の意を表すのに企業名を電波上で堂々と流した。特に特定企業名を電波上報道することは問題であるので中止するよう注意したにも関わらずその後も数回おこなった。これこそが電波法違反に当たりこの運営は兵庫県支部であれば何と言いつけを付けるのか大いに疑問であった。

又JA3RLのメンバーがせっかく開局した地区コントロール局についても、JA3YRLが開局させたのではないし、以前そこには無線は必要としないと断られた経緯もあり（どんな説

明をしたのかは概略想像出来るが) その地区コントロール局は全く見放された状態が続いていた時があった。

- (10) 関西地方本部は登録されていないHAM局の活動についてその人を使用した地区コントロール局長にかなりのクレームをつけるが、地区で必要としたときに関西地方本部に人員を要請したが登録HAM局長には地方本部より連絡がしていなかった事が多かった。又現地の情勢を考えずに単に人だけを送ったために、現地では忙しくHAMの作業内容まで十分に説明出来ずに放置した事もあり、それが同じ場所で活動している救援センターの人たちより邪魔者扱いにされた事も少なくなかった。

これも各部署での概略作業内容を明示しなかった本部の問題である。

- (11) 非常通信体制がなぜ遅れたのか。聞く所では本部長の仕事が忙しく連盟の仕事どころではなかったとのことである。JARL本部では非常通信を行う事が1/21日に新聞紙上に報道されたが、一番先に動かねばならない関西地方本部が1/28日迄放置していたのは大いに疑問である。本部長は職場での仕事等が忙しくその為に連盟の仕事が出来なければ本部長職務をいち早く誰かに移管しなくてははいけないと考える。その間に人命、財産が失われ、しかもアマチュア無線の有効性迄云々されたとしたら本部長は何と弁明するのか。幸いなことに多くの善意あるHAMが連盟と無関係に救援活動に有効な働きをし、その働きにアマチュア無線を使用していたので全体としてJARL連盟が行ったとして評価されている事に気が付いて居ないのではないかと思う。社団法人JARLの社会的責任についてどう考えているのかその真意を質したい。

- (12) 非常通信の周波数に無免許局が入り混信を起こし非常通信業務に支障を起こしても何の解決方法もない。(レピーターは妨害電波が入れば全く使用不可能になるのでこの使用はあまり重要視してはいけない)

非常通信業務は円滑な電波の運用が求められているにも関わらず、無免許の人が使用している事が最初から判っている周波数をあえて使用した事について、誰が、どの様な経緯で、誰に報告をし、どう結論にいたったか知りたいところである。

- (13) JASRL運用メンバーも被災地の実状を直接自分の目で見て無線の運用にあたれば地区コントロール局及びセンター局との連絡も密となりより効果的と考え2/11日に有志を集め数人で被災地に入り、同時に特別局の実体調査を行った。

西宮市：公会教会(市民の会事務所内)

アンテナ設備と固定局、ハンディ機の設備はあったがオペレーターが居ないため、邪魔者扱いにされ物資の下に置かれていた。係りの人に聞くと取扱いが出来る人が居なければ意味がないとかなりの強いクレームを受けた。

福祉会館(全国社会福祉協議会内：主活動コーディネーターは大阪社会福祉協議会)  
8 J3ADRと聞いていたが近くで呼び出したが連絡がつかなく、JASYRLに問い合わせると判らないとの返事であった。

東灘区：JASYRL(富安氏宅内)

5-6人いて常時はここに送られてくる物資の配送、炊き出し等の活動が主業務の様であった。

当初は宮安氏個人が行っていた物資集配も、日時経過後は東灘区の救援センターに統合したほうが効率が良く、センター局としての通信業務に力を入れるべき所、単独の集配業務が主業務であった。しかも個人に男性が5-6人も出入りしては家庭のプライバシーは完全に壊れ、早期の局移動の検討を再度本部長に求めた。

8 J 3 A M L (東灘区保健所内)

H A Mが何の目的を持ち活動しているかわからないし、各H A M局長が来ても救援センターと別行動をしたり、又何をいたらいいのか判らない人が来ればかえって邪魔になるので、J A R Lはどう考え、何を指導しているのか?と救援センターよりクレームがついた。

今後同じ屋根の下で活動するならば救援センターの配下でみんなと同じ行動をし、特に今後は個人家屋に居る老人、身障者家族等弱者の救済に力を貸していただきたいとの要望があり、その方法については現地で打ち合わせをして無線を手足の様に使って貰うよう合意が得られた。

ここでもオペレーターとハンディー機の作業内容が明確に指示されていない為の混乱が起きて居ることが判明した。この件は即日地方本部長に報告されている。

8 J 3 A M J (神戸学生青年センター内)

J A 3 W G I,谷氏がオペレーターとして運用していたがオペレーターの要員の要請があった。

この地区コントロール局は他局と異なり救援センターの中に入らず外部で主として情報活動をしていた。

特に神戸学生青年センターと協力シフロンガス回収と、各避難所に行き情報収集を行いそれを灘ボランティアセンター等の救援センターに報告し救援の情報協力を要請していた。

芦屋市：8 J 3 A M O (芦屋市役所北館内)

芦屋災害対策本部の中に入り込み、各救援グループに1-2名のハンディー機を持たせリアルタイムに状況、情報が随時オペレーターに入り、そこから救援対策本部に報告が行われを指示等がなされ無線が100%以上に有効利用されていた。ここでも免許のある有能なオペレーターが要望された。しかし実状を見ると免許がなくても大変上手に運用、機器の管理がされていた。

以上A M 8. 30に大阪を出発し-P M 5. 30まで電車と15 KMの徒歩により多くの生の情報収集が出来た。

- (1.4) 非常の場合希ではあるが、無線従事者免許証がない人にハンディー機を使用させる事もある事を念頭に置いて置かなければいけない。(これは明らかに電波法違反であるが、生命に関わる場合において何が優先するか臨機応変に判断を行う)特にこの場合は事後の報告を必ず行う事が必要である。

以上は2/11頃の迄の私が知り得た個人的情報であり、更に確實にするためには、ここにまつわる人々により、補足と修正が必要である。

2/14日以降についてはそれぞれの地区コントロール局の活動報告を参照していただきたい。尚私2/14日以降の各地区コントロール局の動きについての私見については現在、各地区コントロール局の責任者にレポートを巡回中で、それに補足、修正がされつつある。

#### コメント

何事も事象において、事実と反省、批判を十分検討し、その上で総括を行い、次に起きる事象にたいしての更なる良い方向への提案と行動が大切である。

アマチュア無線による災害救済活動は、被災地区の該当地方本部が主体となり本部長を委員長とし、早期に支部長を含み状況に応じ登録ボランティアを入れた災害対策委員会を設置する。

#### 第1段階

災害対策委員会のセンター局を設置。

非被災地メンバーで、最大でも市単位で（出来たら約2万人で1局）登録してあるクラブ局、準クラブ局を基に非常災害地区コントロール基地局を設置し、運用を開始する。

被災地初期活動の各種団体にいち早くハンディ―局を付き添え参加させ、情報のやり取りを行い必要な団体に連絡し救援情報活動を援助する。

#### 第2段階

第1段階の活動を行いながら時間の経過と共に、この活動メンバーに被災地の登録局長が順次参加可能になり共同運用になれば、現地により細かな情報が取れてくる。

#### 3段階

順次被災地メンバーが主体的に運用出来るように移行させる。

#### 4段階

被災地メンバーが主導で運用を行い、被災地とのネットワークを構築し単独で行動する。

前略

過日はご多忙にも係わらず、私共の切望をかなえ大阪迄お越しいただきまして誠に有り難う御座いました。

当日参加された各人も非常通信のみならず、いろいろと意見を出して頂きましたので大まかな所ではほぼ納得したのではないかと思います。特にJARLの体質に関しての意見は出来るだけ門戸を開き多くの人から意見を聞き体質改善をしないとますます会員の数が少なくなっていく傾向だと思えます。

特に感じましたことは、JARLの役員（支部長を含み）の中にも「なにお言っても意見を取り上げてくれないので諦めている」と言う人が多いことを上層部は判っていないことです。組織が大きくなり、役員が高齢化するとどんな民主的な団体でも、保守的となり硬直化し、それを解決するのに役員若返りをはかったり、役員以外の会員の意見を直接聞く会を開き生の意見を謙虚に役員が聞きそれを会の運営に反映させるアンフォーマルな活動も大切な事だと思えました。

各地の支部大会は一種のお祭りであり、会員の意見を交換する場所ではありません。とすると一会員の意見を聴く場所は無いことになります。民意として単に選挙で選出された人が運営していけば良いと考えていますと、今の日本の政治と同じに大多数の人が組織からそっぽをむかれてしまいます。

せめてJARLの組織にはそんなことが無いように願う一人の意見です。

同封の書類の説明をしておきます。

最初、HAM等のボランティアが活動現場に来ましたら

- 1) 「ボランティア活動条件」を渡し良く読んでもらいます。
- 2) 「ボランティア受付表」の上から8行目迄と最終行を記入してもらいます。
- 3) 活動内容をパネルから選択します。(どの活動現場でも用意しておきます)

(活動場所パネル例)

救急車同行      巡回医療班      医薬品・医療用具      衣料      家庭用品

給水      食料・給食      ゴミ・トイレ      避難所      避難所面談

お助け隊 (話し相手：買い物：建物撤去：遊び相手：炊き出し：引越：水汲み)

本部活動      臨時倉設地

4) 活動が決まれば

「活動場所：名前」をカードに記入し持参し、控えを係りに渡して、それと交換に「腕章」  
「名前記入用のタックシール」をもらいます。

「タックシール」は名前を記入して服装の上から判るように貼って下さい。

- 5) 必要に応じて「リグ」「バッテリー」等を受けとってください。
- 6) ハンディー器による運用方法を読んで下さい。(非常通信運用案P 8参照)
- 7) 活動場所の仲間と合流して活動して下さい。

活動が終了しましたら

- 8) 「ボランティア活動報告書」に記入して下さい。  
活動中に何か依頼されましたら「依頼受付表」に記入して下さい。
- 9) 「活動場所：名前」を返して下さい。
- 10) 器材を返して下さい。

以上何かの参考にしていただければ幸いです。

尚同封に当日のテーブルのコピーを入れておきますので参考にして頂ければ幸いです。  
今後ともJARLの益々の発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

敬具

7年7月20日

## ボランティアの活動条件

### (1) 食費・交通費・宿泊費などについて

原則としてボランティア本人の自己負担としますのでご了解ください。

### (2) 活動中の事故に対する保障

参加者の皆さんは「ボランティア行事保険」に加入されています。活動中に怪我をしたり、相手に損害を与えた場合などには、一定の範囲で保障されています。これらの保険料は主催者が全額負担しております。

なおこの保険は余震による災害については保障されていません。

もしこの余震の「震災特約保険」を加入される場合は、自己負担になり1ヶ月約1,768円かかります。

加入されます人は、お名前 住所 電話番号 保険料をご用意ください。

### (3) ボランティア活動の手続

#### 受付

- A) ボランティア受付表に記入
- B) 腕章（当局ボランティアで在ることの証明、終了時に返却してください）
- C) 名前の表示（タックシールで服装の上に自立つ様に貼ります）
- D) 名前カード（活動場所、内容記入し各自持参して下さい）
- E) 器材の受け渡し

#### 活動内容の選択

- A) パネルの活動メニューの中から選択してください

#### 活動の仕方（指示待ちではなく自主的に課題を探して取り組みましょう）

- A) 他団体の中に参加して活動  
ハンディー機を持参し、その団体の活動方針により直接動く  
必要な都度本部に連絡し、情報の意思伝達を行ない更に発生源に連絡行う
- B) 本部での活動  
オペレーターとして活動する。  
正確な情報の収集を行い、情報を必要としている場所に速やかに与え、更に情報提供者に報告、連絡を行う

#### 活動が終わったら

- A) 名前カードを渡して下さい
- B) 救接受付表を記入して出してください
- C) ボランティア活動報告書記入して出してください
- E) 器材の返却

#### もう少し活動に深く関わってみたい方に

私たちは、毎晩、当日の報告と反省、今後の対応を話し合います  
私たちの活動の全容がより見えてきますのでぜひご参加ください



# 依頼受付表

受付者： \_\_\_\_\_ 担当者： \_\_\_\_\_

受付年月日		年 月 日 ( 曜日 )			時 頃	来局・電話・郵便	
個人	氏名	男・女 才		状態			
	住所					TEL :	
依頼者	氏名	あなたとの関係				男・女 才	
	連絡先					TEL	
紹介者							
連携団体				TEL : FAX			

「主な訴えの内容」

-----

-----

-----

「状況」

-----

-----

-----

「対応」

-----

-----

-----

受理→募集	紹介	団体紹介	行政連絡	施設紹介	団体連絡
中止	調整つかず	保留	受理出来ない	その他	

## ボランティア活動報告書

氏名	住所
何の情報から参加しましたか 新聞・ラジオ・TV・知人家族・突然・その他	
活動日時	
活動内容（場所が複数の場合はそれぞれの場所毎に記入して下さい）	
これから活動の参考にしますので、今日の活動で感じた事などを記入して下さい	
1. どんな事が求められていると思われましたか？ 人的なサービス（労力・介助・相談・話し相手・情報の提供などを含む）	
物資（不足している品物の名称・希望されている数量）	
その他	
2. 当局の活動方法への提案や問題提起、その他感じられた事をご記入ください	
3. 今後來られる日がありますか？	
お疲れさまでした。気をつけて、お帰り下さい。	

## 非常通信開局運用案

### 運営委員会

非常運用の指示、決定機関として各支部長とボランティアメンバーによる非常通信委員会を設置し、ここで検討し、決定したことをセンター局から地区コントロール局に伝達し、実施してもらうなどコーディネーター的役割を行う。

委員会のメンバーは直接被災地を視察し随時被災地区コントロール局全局の責任者と会合を持ち、地区局の運営方向を細かくその都度検討し実施していく。地区コントロール局を開設する場合は、委員会が決め適切なクラブ局をその任にあてさせる。

当初被災地の局長の参加は無理であると考え、被災地に近い所在地で非常通信業務を開始し時間経過と共に被災地の局長がこれに参加出来るようにする。(地理的、住民感情をより重視するためにも大切である)

この委員会は各地方本部毎にインフォーマル組織として設置しメンバーを常時確定しておく必要がある。

**周波数** 使用周波数は433.02-433.08, 432.92-432.98の間のいずれかを使用する。(これはメインの近くで常時使用している大半の人達はJARLのメンバーか又はそれ以外でも非常通信の趣意を説明すれば比較的理解してもらえる局長か又はクラブ局である)

### センター局(支部が運営を行い、地区コントロール局が6局で1センター局とする)

各地区コントロール局の開設準備

各地区の無線の円滑運用管理と各種援助

各地区の運営状態の把握

定時に各地区の状況を電波上報告し全員に状況を知らせる

### 地区コントロール局(クラブ局、準クラブ局が運用し、QSOになれたオペレーターを用いる)

非常時に基地局となってもらうクラブ、準クラブ局の登録をしておく。

各地区コントロール局間の無線連絡の必要はほとんど無い。

常時何らかの活動をしているクラブ局、準クラブ局がこの任に当たる事は人員確保、意志の伝達等に最適である。

開局場所は必ず救援支援センター、又はそれに準ずる場所に設営する。

### 運営

救援支援センター等の管理下で、その指示によりハンディー移動局からの情報を関係各所に連絡、報告をする。(メモで渡す)

上記の連絡、報告の実施状況を関係各所より連絡をもらい、状況提供局、状況提供場所に連絡する。(メモ又は無線)

混信に注意を払い通信を円滑に行う為に、独自に周波数、電波形式を設定しハンディー局と綿密な打ち合わせを行う。但し以後センター局に必ず報告をしておく事。

ハンディー局長とリグの管理、運営と1日の活動の反省を行う

直接ボランティア局長が来た場合は登録しその支配下で活動させセンター局に報告する。

1日の概略活動をセンター局に報告する

## ハンディー局（非常時のボランティア～局として登録しておく）

指定用紙に必要事項を記入し、地区コントロール局に登録をおこなう

各地区のコントロール局の指示により、救援対策センターの管理下で、その指示により、又は自発的な活動等を行い情報収集をし、コントロール局に報告する（場所と内容）

各種救援活動のボランティアの一員として活動し、通信を活用して状況を報告し、救援センターや、行政の円滑な運営をサポートする

地区コントロール局に情報提供した場合、その結果報告をかならず情報発信地に連絡する。

1日の活動内容を指定用紙に記入し帰宅前に地区コントロールに提出する

## コメント

ボランティア活動に対する考え方

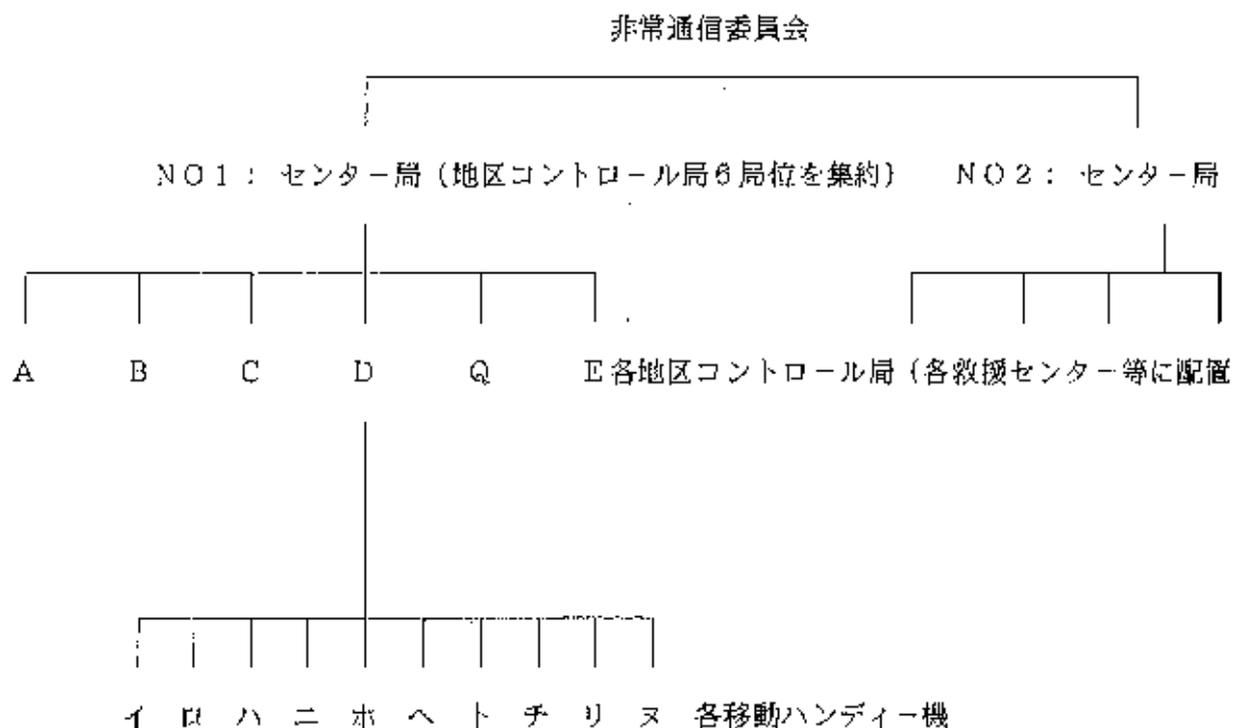
ボランティア活動には最低2つの条件が必要である。

(1) 困っている人を見て「お手伝いしましょうか」と気軽に声をかける社交性を身につけ、それを高めていくこと。

(2) 価値観を多様化していくこと

回りにいる野次馬的人に「ちょっとやってみませんか」と気軽に声をかけてやらせて見せる。慣れて興味をもってきたころに「これはこうするとやりやすいんだよ」と教えていくとボランティア活動も広がると思う。

## 概略組織図



## 実際

今考えると1月17日吹田市の自宅で早朝「なにか変だなあ」と、うとうとしていた途端上下に身体が叩きつけられベットが大きく左右に揺れだし、そしてその隙間にはうきりと目がさめた。関東にて長年生活し地震には慢性的に慣れていたが、今までに体験しない大きな揺れに「これはただごとではない」と思うと同時に「ガチャン」「ドスン」とガラス類の割れる音が台所の方からし、これは大変だと部屋から飛び出し地震の震源地を知る為に直ぐにTVをつけ、暫くして地震情報が京都、和歌山方面強い震度が発生と流され吹田市より遠くであるので安心し、又無線機の430MHzのメインを聞くがシーンとし、誰もQSOをしていないので、揺れは大きかったが各地の被害はさほど出ていないと思い込み、室内の壊れた品物等のかたづけは明るくなってからにするとして再度ベットに入り30分位うとうとうとしていた。それでも職場に少し早めに行く意識があったのか6時30分頃起きTVを付けたとたん震源地が神戸地区で災害実況報道に思わず唖然とした。同時にこれは大変な災害が近隣で起き無線の情報が出ているものと無線機のSWを入れ、30分前とは雲泥の差でメインはメチャクチャな混信の中でやっと聞き取れるのはトラック等モバイル移動局の国道2号線等の混雑回避のルート案内の要求情報であった。この情報に対して応答する固定局は1局も出て居なかった。メイン周辺の429.00~431.00を暫く聞くが一部の周波数では災害のルート案内の要請、救急車、消防等の要請があっても混信を起こし全文を把握出来ず、それ以外は日常的な大阪の朝の固定化されたモバイル及び固定局の交信であった。

職場に行くにも電車等が不通のため、7時頃に乗用車を利用し、途中街路樹の倒壊、一部のビルのガラス、タイルの破損等が道路横迄に散乱した所を通るのに多少支障があっても当日は通行車両が以外に少なく普段40分位かかるところ20分位で7時30分頃大阪・心斎橋の職場に到着した。

直ちに従業員の安否連絡を電話で行うが大阪市内の回線の制限か話し中が多くなかなか連絡が取れず特に神戸方面の電話はかからなかった。

8時頃に今日の診療担当医師であるDrより携帯電話での連絡が入り「前日、神戸西市民病院の当直でこの辺は大きな被害で病院も5階が倒壊し緊急患者の応対に追われ、そちらでの今日の診察は出来ないで誰かと交替してもらいたい、大阪も大きな被害と思うがなんとか看護婦2名出してもらいたい」と、大阪で見ているTVでは「震源地は神戸市M7」「5階の病棟が崩れて、現在入院患者多数がその下に居る模様」「長田区では5ヶ所位で火災が発生中」「阪神高速道路が東灘区周辺で倒壊」「阪神電車、阪急電車、JR、新幹線等の高架橋が複数所で倒壊」「国道2号線、産業道路等の主幹線道路が不通と大渋滞」「多くの民家の倒壊」「死者は100人位でまだ増える傾向」と空からの情報でそれをDrに伝えると、「ここでは停電でTVの情報もなく、ラジオもないので、只目の前で起きている事を処理している」直ぐに電話は不通になり以後3日間は電話連絡ができなかった。

この時点では震源地に直面した所の被災地に情報が殆ど届かず、周辺の比較的災害の少ないところにTV等より空中撮影からのおおくの情報が集まった。結局、1月17日の大阪地方も交通機関が1日中不通となり10時をもって職場も臨時休診とした。

要望された看護婦2名も18日の夜迄にやっと調整し、單車2台の後ろに乗せ精製水、飲料水と、連絡用にハンディー用アマチュア無線機2台(430MHz用)を持って出発した。

現地に到着すると連絡用無線機はいち早く安否情報に利用された。しかし周辺の固定局は災害を受け、又停電のため1局とも連絡がつかない。出力の弱いハンディー機のため全てモバイル移動局に消された。しかも430MHzのFM帯は、周辺の大阪地方では今回の災害は対岸の火のように、相いも変わらぬ日常のラグチューーに終始し非常通信と神戸から出しても消され役に立たず仕方なくハンディー機同志の単独で行うことにし使用周波数と変調は430MHzのSSB帯にFM変調で基点を神戸市長田区(移動して灘区、東灘区)中継地点は六甲山に、そこから吹田市の固定局に繋ぎ安否情報を開始した。方法は1時間間隔で連絡者の住所と氏名、連絡先の住所と氏名を巻取り固定局に一方向で送り、固定局で104で電話通話をし電話連絡をした。

1月19日、20日の当時、六甲山中腹でも零下の気温であり、防寒服、食事等の不十分なためこの局長が倒れ心ならずも2日間で中断したが全国610ヶ所に連絡が出来た。

一方、神戸市内のアマチュア無線家の動向は、神戸市内の停電は17-18夕方(場所により異なるが)迄続きその間の情報は携帯ラジオのみであり、近隣の詳細は自分で歩いておこなっていた。

1月18日夕刻電気の回復に従い市内の局長が少しずつお互いの安否と周辺情報の交換が始まってきて災害の確実な交信はJA3WGL(灘区)とJA6IOC/3(東灘区)のみ。

1月20日より各地からの救援物資搬入、日赤等の案内交信が多く1人では無理、1月21日に有線で近所の局に依頼するが無理で他局を呼び出し中、神戸に入港の海上自衛隊護衛艦「しらね」搭乗のJM1YEP(海上自衛隊横須賀基地HAMクラブ)と交信、給水支援の情報を無線を通し最後まで頂く。JG6IOC/3より「JARLよりレピーター、ハンディー機の貸し出し、東灘区役所は不要、芦屋市役所は20台、JARLよりOP3名応援、JARL兵庫県支部が120台保有」の連絡。

1月22日レピーターのテスト。少しずつ灘区災害対策本部を尋ね無線機の要望を聞くが、携帯無線の要求のみ。

1月26日JARLに有線で「JA3YRLをJG6IOC/3個人宅に設置したが、OP1人では無理、至急OPの応援要請」各日赤医療隊等の連絡、J13QUO(陸上自衛隊和泉連帯救援派遣通信隊)と交信し情報交換。

1月24日(地震8日後)新聞紙上にアマチュア無線家のボランティア募集。

1月28日(地震12日後)JARL関西地方本部事務所で最初の会合で本部長より状況報告があったが具体的な行動方針、計画が無いのに全員が失望した。

内容は概略以下の通り。

関西地方本部ではハンディー機200台全部を兵庫県支部に渡したが配布先が不明のため今日集まった人が必要とした場合に渡す事が出来ない。これは8J3AAAから始まる特別処置の口頭による免許許可使用周波数は436.88、436.72、436.50のFMが郵政省から認められたので非常通信はここで行う。

JA3RLを1月28日より運用し、災害復旧支援センター局とし1月28日開局のJA3YRL(東灘

区：富安氏自宅：兵庫県支部運用局・3/1より灘区神戸学生青年センターに移動）をサブセンター局として運用する。

レピーター（JR3WA：430・1200）を1月21日より（JR3VU：1200）を1月26日より運用開始。

JA3YRLと連携をとり、主として神戸市内と配布200台のハンディー機及び一般アマチュア局と交信し以下の情報収集、伝達を図り、各局からの問い合わせにたいしても情報提供を行う。

交通情報及び道路の損壊、近隣居住者・知人等の安否、水・食料を扱っている商店、公共サービスの実施状況、被災地居住のアマチュア局の動静（これが当所の主目的である）

JA3RLは2月末の土、日、祭日に関係なく10時～19時の運用で主として周波数の確保が目的。

これで「さあ皆さんこれからどうしましょうか？」と問いかけられた。

そこで以下の情報が出され有志がその場で即実行にうつす計画を練り各所に連絡を開始した。

西宮市の公民館（応援する市民の会：災害救援最大のボランティアグループ）に連絡したが既に誰かがアンテナと無線機は設置してあり、しかしオペレーターを出す約束が実行されないのでは誰も運用する事が出来ないと叱られ器材が邪魔になるので引き取りを要望された。

神戸市長田区で活動中のAMDAが連絡用に岡山のアマチュア無線家を利用していましたが局長が体調を崩し交替要員を探している情報があり、AMDA本部事務局に連絡しそれから長田区現地責任者を通じやっとなら JARL岡山県支部長の武蔵氏と連絡が取れ翌日の1月29日に関西からJA3QVQグループが岡山支部との引継を行ない8J3AMSの地区基地局となった。

以後JA3RLは430MHzのFMでJA3YRLとの机上の業務交信と、非常通信周波数の指定3波の混信排除等がメインの作業であった。

2月2日・朝日新聞にHAMボランティア募集の記事が掲載され当日だけで150人以上がJARL関西地方本部に登録された。

その後JA3YRLサブセンター局はどちらかと言うと東灘区の一部周辺の個人的な救援の物資配達、炊き出し等がメインの作業で、当時一般で言われる広域でのボランティア支援活動では無かった。

これではせっかくの連絡用アマチュア無線が有効に利用されず、それよりも各地の災害救援センターの現場内に入り、各種救援、災害復旧の手足として利用して貰う方法を模索していたが、東灘区保健所が東灘区及び灘区の共同の救援活動をしていたので、2月4日（地震後19日目）此地に許可を得て地区基地局8J3AMLが開設。

2月5日（地震後20日目）灘区・神戸学生青年センター内に8J3AMJが開設。

2月11日（地震後26日）JA3RLのオペレーター5人が各災害復旧基地局を訪問し意見調整を行い同時に災害現場と各避難所及び各地区の災害救援センターの調査をした。

2月12日（地震後27日目）西宮市・福祉会館内に8L3AMRが開設。

この間に芦屋市役所北館に8J3AMO、神戸市西区の神戸外大内に8J3AMN、神戸市兵庫区役所内に8J3AMM、そして主として個人運用として西宮市の広田小学校に8J3AMT、神戸市西区の体育館に8J3AMK、神戸市中央区に8J3AMI（パケット）、宝塚市に8J3AMQ、兵庫区JA3C

GK、瀬区JA3WGL、神戸大学内に8J3QAJN-8J3AJF、神戸学生青年センターに8J3AEB-8J3AEC、つまり配下に複数のハンディー機があり専属のオペレーターがいた基地局は6局で、単独で運用していた基地局は12局であった。このうちサブセンター局であるJA3YRLが終始コントロールした基地局はほとんどなく、それぞれの開設地区基地局の単独行動であった。

各救援災害センター内における基地局の活動は専属オペレーターが1-2人、その下に複数のハンディー機を持った人が以下の各種ボランティア活動をする中で必要に応じ連絡の交信をした。

避難所・避難所回り・巡回医療・地域巡回調査・救急車及び緊急車・衣料・家庭用品・給水・食料及び給食・ゴミ及びトイレ・商店案内・入浴案内・公共サービスの復旧情報及び各種情報・交通情報・お助け隊  
(訴相手・買い物・建物撤去・遊び相手・炊き出し・引越・水くみ・自転車修理)

「ハンディー及び移動局の概略活動：8J3AAA-」

基地局では必ず登録する。

各種ボランティア活動の中に入り必要に応じ基地局と連絡を取り(基地局から指示)作業を円滑にする。情報提供の場合は実施状況の確認を行う。(当日出来なければ次の人に申し送りをする)

1日の作業報告を提出。

「地区基地局の概略活動：8J3AMS・8J3AML・8J3AMJ・8J3AMO・8J3AMR」

局設置場所の救援対策、災害対策本部の管理下で活動し、情報を関係各所に連絡しそのフォローの確認。通信を円滑にするため、独自に周波数、電波形式を設定しサブセンター局に報告。

器械・器具の管理。

1日の通信記録はサブセンター局に、作業記録は対策本部に提出。

「サブセンター局の概略活動：JA3YRL」

各地区の無線の円滑な運営の管理と助言及び地区開局の手配、人員の配分、調整等。

1日の各基地局の活動状況等の報告、連絡事項を指定周波数で行う。

「センター局の概略活動：JA3RL」

サブセンター局、地区基地局間の調整とこれらの局の依頼業務の実施。

各種団体との調整及び連絡。使用電波の管理、人員の管理、調整、器材の調達。

効果

電話は1対1の情報が無線では一斉に情報の交換でき(半額通信)、しかも多くの動向が瞬時に解りそれにより対応策が急いで出来た。

一斉呼び出し、個別呼び出しが出来、情報の伝達が早かった。

大勢の局が聞いて居るので誤報も修正が可能になるのでより正確な情報が得られた。

対策本部等で活動し、電話と違う無線を現場で見聞され多くの人にその効果が確認された。

単なる無線専用のOPでなく、各種ボランティア活動をしながら必要な連絡にアマチュア無線を利用したので周知の人の間で専門的な特殊技術者としての違和感がなかった。

無線通信連絡が対策本部内で評価が高まると、思わない所から伝達、要望等依頼事項が多くなり更に人的交流と情報量が多くなり災害対策の全体像が自然と鮮明になり、それによる災害復旧の先取りの提案がア

マチュア無線家から出るようになり周囲から期待と信頼が増した。

遊びと見られていたアマチュア無線は、それを運用している人がいろんな職業の持ち主で、その職業的知識を生かしながらボランティア活動をし、更に情報収集にアマチュア無線の通信を行うのである種の羨望的な見方があり、これにより免許を取得したいとの希望者が多くあった。

一部であるが公共、官公庁との間で情報の交換が出来た。

## 反省

### 組織関係

まさか関西地方で地震が起こる事は誰もが予想しなく、それに対応する方策が全くなかったために災害救援対策を立ち上げる迄に時間がかかった。

日頃から違法無線局の適切な排除が行われず無線のマナーの向上が不足していたため混信等の対応に苦慮した。

JARL関西地方本部自体が非常通信を行うについてかなり躊躇していたので立ち後れ、その後の積極性と命令系統がまちまちで混乱が生じた。(募集、事務局、支部間)

メイン周波数で随時非常通信が行われているアナウンスがあれば、より多くの関西地方の局長が活動に参加出来、混信等の排除にも協力可能であった。

基地局、サブセンター局共に活動内容、指示等の具体的なマニュアルがないため対策本部との間にトラブルが生じ閉局したところがあった。(8J3AML)

JARL関西地方本部等の役員の非常時に対する意識の欠如がありこれが混乱の根元となった。

災害直後に消防と一請に救急医療に加わり、搬送元、搬送先の連絡が出来たらどんなに効果的で喜ばれたか知りしれない。

災害時にはJARLの会員以外の人が多く活動を支えてもらえるので、直ちにJARLが主体で既存の組織とは別に災害復旧特別委員会等の組織を作り、指揮、命令等の情報を統一することが大切であった。

使用するハンディー機はより簡素化して、誰でも簡単に運用出来、しかも器材の備蓄が必要であった。

停電期間はバッテリーが必要であるが、電気系統の回復に伴い充電器のバッテリーに切り替える事が必要であり、充電器付と充電バッテリーが必要であった。

災害時には隣接の支部等が早急に応援に入れる体制を構築しなければいけなかった。

基地局、サブセンター局共コーディネーター的役割をする人が居ないので指示減裂になる場合があった。

プライバシー等の関係で個人の家での基地局の開局は絶対に避けるべきである。

官民一体の救援情報活動を作り上げる。

ボランティア保険に加入。

### 無線家関係

非常通信の法律、非常通信の運用が理解されていなかったなのでその説明に苦慮した。

無線家のボランティアは全て机の前に座るオペレーターだけだと思い込んでいる人が多く、OPでなければ協力しない人が以外にいたので一般ボランティアの中に入って必要な時に無線を使用する方が効果的な運用方法である事を理解してもらうのに苦慮した。

率領通信方式や、ラウンドQSOや、FM変調独特のブレイクタイムを取る通信手段を知らない人がいて更に通信の円滑を欠いた。

日頃ラウンドQSOの経験していない人がOPをすると混信等に臨機応変のQSOに切替が出来ないのでかえって混乱を来した。

基地局には十分になれたオペレーターが必要で、更に各基地局のメイン構成員は日頃QSOをしているグループが主体になる事が運用面で有効な働きが出来大切な事である。

無線と携帯電話との利点、欠点が日頃から理解していなかった。

ハンディー機の利用が初めての人が多くいて慣れるのに時間を要した。

FMはSSBと違う通信方法を行うために、これにとまどう人が多く慣れるのに時を要した。

災害時等を想定し災害復旧基地局を担えるクラブを登録しておくで早い時期に活動が開始される。

災害時等を想定し災害復旧に参加可能な無線家を登録しておくで早い時期に活動が開始される。

#### 第一段階（災害発生1日目位）

災害対策委員会設置・行政及び公共団体との連携の打ち合わせ

センター局の開局

非被災地の支部のボランティア登録クラブ（準クラブ）を召集し、地区基地局開局を行う。

被災地の各種団体に連絡を取り初期災害救援活動を援助する。

個人登録メンバーの参加可能な時間等の確認と一般アマチュア無線家の募集をマスコミを通じて行う。

#### 第二段階（災害発生後1週間後位）

第一段階の活動を行いながら時間の経過と共に、この活動に被災地の人で活動出来る人を順次参加させて共同運用にしていく。これは現地の生活、道路等の細かな情報が得られ被災者自立への第一歩につながる。

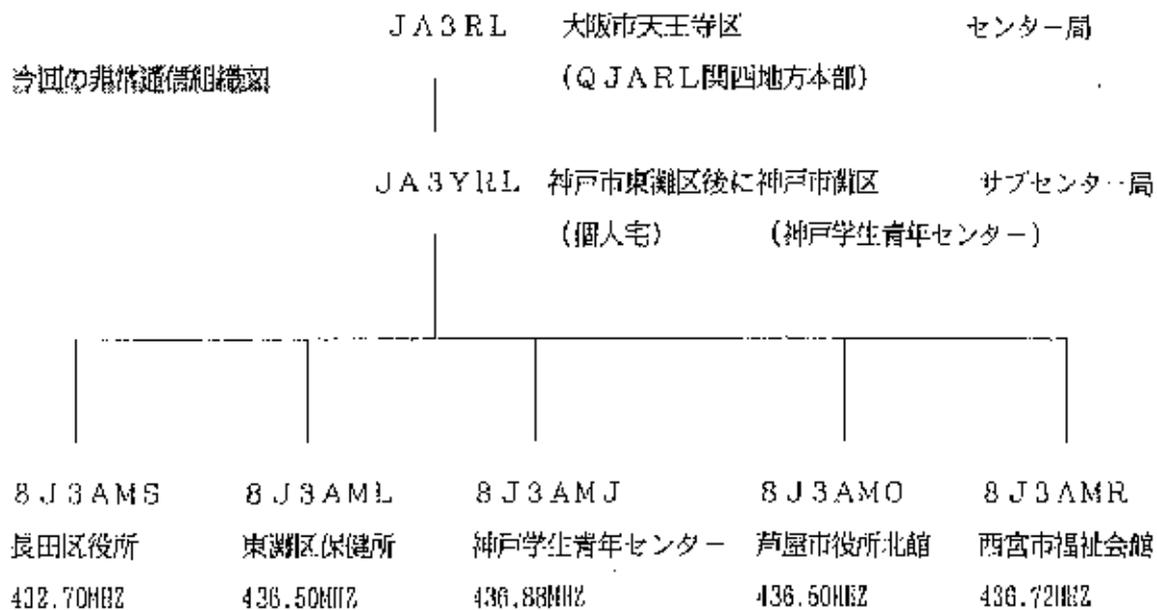
#### 第三段階（災害発生後1ヶ月後位）

主体を順次被災地メンバーに変更し、非被災地メンバーは補助的役割に向かう。

#### 第四段階（災害発生後2ヶ月後位）

被災地メンバーが主体で運用を行い、被災地各団体との協力を深め単独行動をする。

詳細は「非常通信開局運用案」参照



個人的要案が強い局

8J3AMN 西区・神戸外大  
8J3AMT 西宮市・広田小  
8J3AMK 西区・体育館  
8J3AMM 兵庫区役所  
8J3AMI 中央区・V  
8J3AMQ 宝塚市

JA3CGK 兵庫区  
8J3AEB~8J3AEC 灘区・神戸学生青年センタ  
8J3AJN~8J3AJP 神戸大学救護センター

最初の情報交換局

JA3WGL 灘区  
JG6IOC/3

# なさんに支援を

## 被災関連 情報コーナー

被災した市民のみなさんの役に立つ情報を、ファクスで朝日新聞社会部情報コーナーへお寄せ下さい。ファクス番号は06・443・4439です。

### 医療

◆医薬品や医療器具の提供  
大阪府で医療相談を受け付けている「ささえあい医療人権センターコムル」には、市民や医療関連会社などから医薬品や医療器具

の提供の申し出が相次いでいる。風邪薬などの薬や心電図計、点滴用のブドウ糖などが足りないところは同センター(06・314・1052、ファクス06・314・3606)へ連絡を。◆被災地で開業している病院情報 開業している病

院(0727・59・695) 0)▽宝塚(0797・86・1114)▽西宮(0798・28・0682)▽芦屋(0797・32・2000)▽明石(078・018・0751) ◆診療可能な病院や医療「ささえあい医療人権センターコムル」(06・314・1052)がまとめた神戸、西宮、芦屋、宝塚四市の主な病院は次の通り。風邪薬の投与はほとんどどこでも行っているが、入院可の病院でもベッドが満員のケースや診療時間の変更があるので電話で確認して下さい。

### 非常品リスト

【非常持ち出し品】リユックサックなどに入れて目につきやすいところに置いておくもの  
飲料水、ラッポ、衣類、食料品、マッチ、ライター、貴重品、懐中電灯、救急セット、雨具、ちり紙など  
【非常備蓄品】地震後

【東灘区】東神戸(078・841・5731)▽甲南(078・851・2181)【長田区】兵庫(078・871・2516)【灘区】吉田アデマン(078・861・00

# 医療応援 全国へ SOS

被災地で救済活動をおこなう医療ボランティア組織の「アジア医師連絡協議会」(本部・岡山市、AMD)と「国境なき医師団」(日本事務局・東京)は、全国各地の医師や看護婦の応援、資金援助を求める緊急アピールを出した。

### 医師連絡協 国境なき医師団

倉庫舎一階で、避難中の金住氏八十六人を対象に、かぜの症状を調査した。ここでは六十歳以上が四四%を占め、全体の半数が咳(せき)、一割が発熱していた。支援に駆けつける医療ボランティアに、AMDは「我々自身も協力を求めているが、どこに行けばいいかわからない場合は市役所や区役所をめぐり、あるいは避難所の医療グループから情報を集めて独自に活動してほしい。可能な医薬品や寝袋、食料などは自分

### 分な治療できず

線の有資格者、義援金も募集している。連絡先はAMD(088・284・7730)。義援金は郵便振替「〇二五〇二一四〇七〇九アジア医師連絡協議会」。通信欄に「兵庫地盤」と記入。世界の紛争地域や難民キャンプなどで活動している国境なき医師団では、逼迫している医薬品を確保するため、資金援助を求めている。百万円の救済金が集まれば、緊急医薬品一セットと約四十枚の毛布が準備できるとい

### 喪品と資金不足

### 医療

◆妊産婦のための母親教室  
4月2日午後1〜3時半、神戸市東灘区の市医師会館東灘分館大ホール。小児科医、産婦人科医、助産婦が、震災後の混乱の中で初めてお産を迎える人や、育児に不安を持つ人の相談に応じる。無料。問い合わせは灘区アマチュア無線ボランティア078・842・2122。

### ボランティア

◆ボランティアのためのワークショップ 30日午後2時半、同6時半の2回、神戸市東灘区岡本8丁目甲南大学10号館で。臨床心理士を講師に、長期援助で蓄積したストレスの解消をはかる。東灘区内で働く求